處女の友

第二巻　第四號

2巻4号

大正八年四月廿八日印刷納本
大正八年五月一日發行（毎月一回一日發行）
大正七年十二月二十三日第三種郵便物認可

處女會中央部發行

Google

賜天覽
賜台覽

青年團及處女會

前内務大臣 水野錬太郎序
前文部大臣 岡田良平序
樞密顧問官 一木喜徳郎序
前文部次官 田所美治序
宮内兼内閣 兼内務省囑託 國府種徳序
内務省囑託 天野藤男著

四大特色
材料豊富
文章簡明
統計確實
識見卓越

忽三版

菊版四五〇頁
箱入美本
定價二圓五十錢
送料十二錢

青年團の研究者にして處女會の唱道者として識られたる著者が多年の苦心に成れる著述でありまして青年會處女會の歴史から組織經營の方法實例事業の種類優良團體事蹟など正確なる事實に就き掌に取る如く簡明に敍述してありますので青年會處女會の指導者には此上もない參考書であります。外國の青年會處女會の實例や青年團の新研究などは他の書物に見ることが出來ない文字であります。

東京市本郷元町二ノ六六
發行所 丙辰出版社
振替東京三三三〇〇番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

中央部より

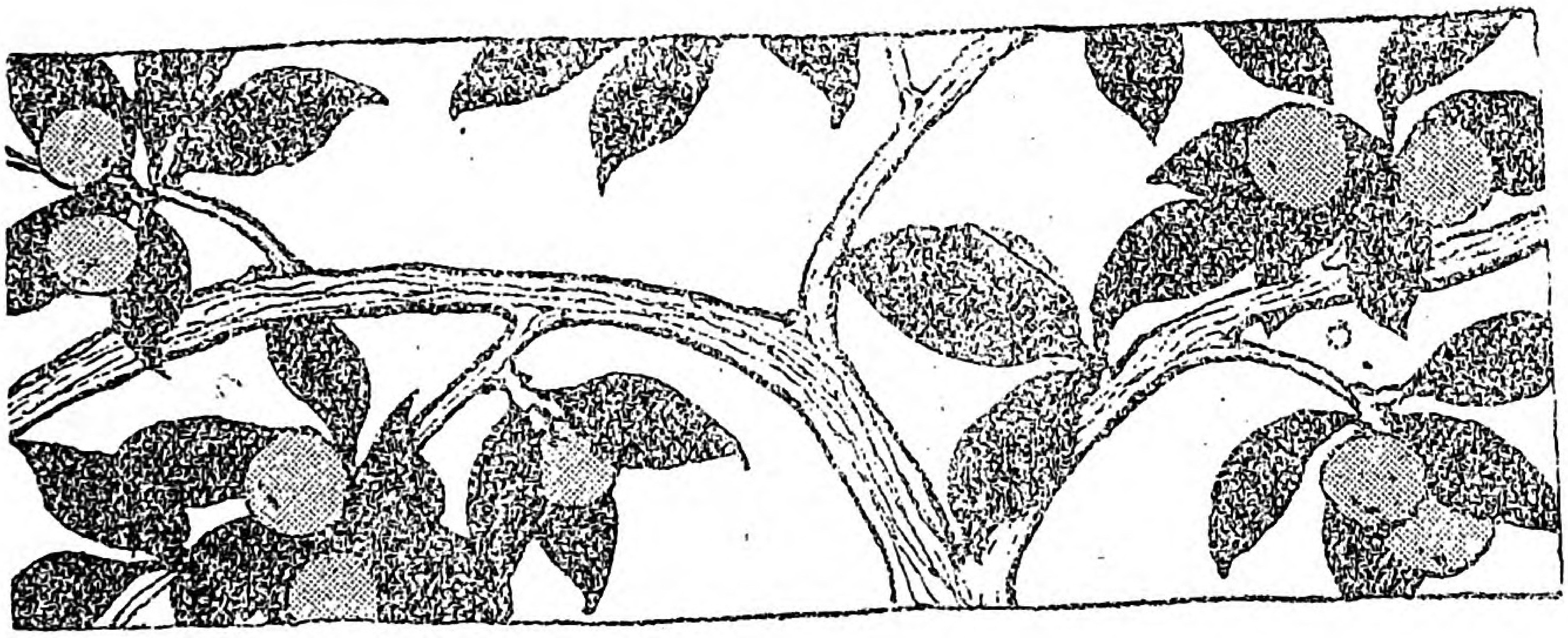
農繁期と相成申候、お茶に、お蠶に、やがて麥刈に、田植に地方諸孃は自然及農事とひと戰爭なさることに御座候。是こそ眞の勉强に候、學問に候。處女會の目的は實にこゝに有之ことゝ存じ候。愛國川の源はしづかなる田舍にこれあり候。皆樣のお力にて其の川の源が淸く澄むように相成候はゞ是ぞまことのお國への忠義御奉公、皆樣は野にかくれたる忠臣に御座候。

折角御丈夫にて御働き下さることを祈り上候。

大正八年五月七日目出度き御成年の爲に

處女會中央部

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



處女の友

五月號目次 第二巻第四號

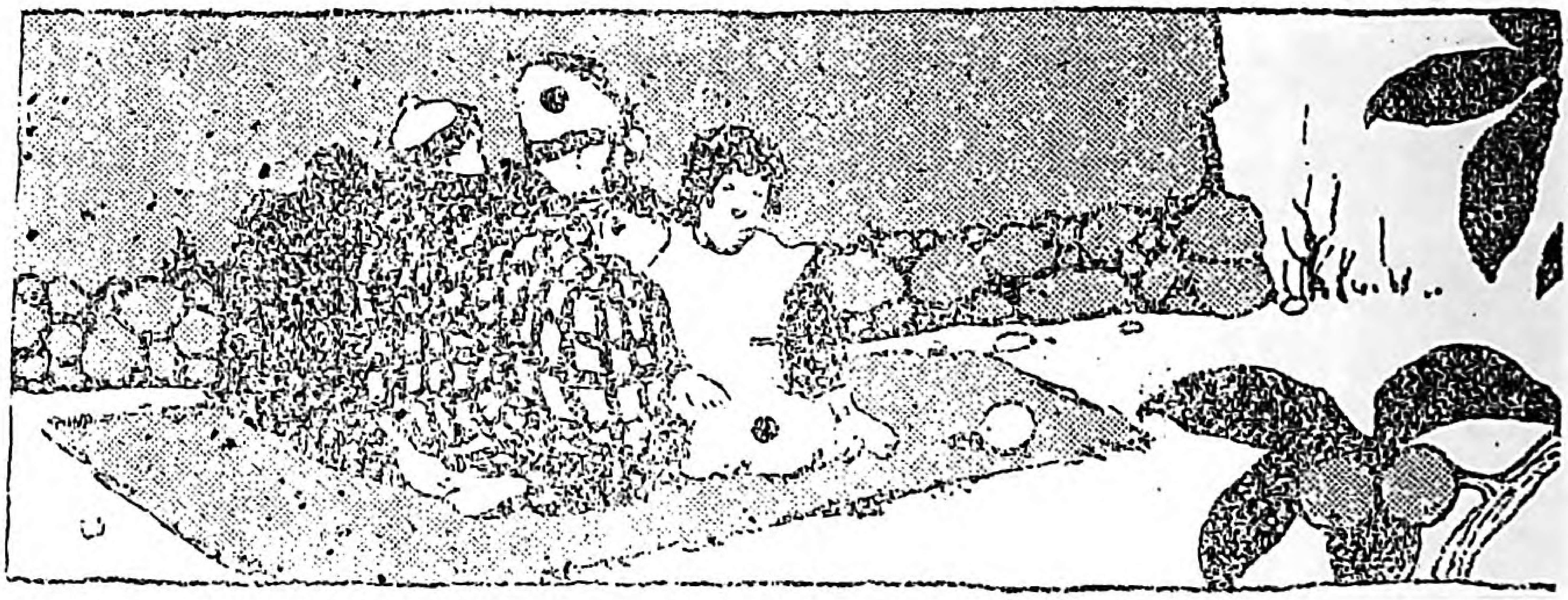
題字（處女の友）……跡見花蹊筆
表紙……田代紫光筆
口繪（地方處女會の活動）……

□卷頭

□田舍の忠臣……一
□強く優しくまじめに働け……二
□勤王に咲く津山のうば櫻……今井兼寛……四
□眞に美しい處女……山脇房子……七
□英國の少女會……安井哲子……九
□勞働は卑しいことか……天野藤男……一三
□端午さひな祭……一四
□智識の庫……一七
□きのうけふ……白雲……一八
□床次大臣と手向草……二〇

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



□なつかしき農村の姉妹へ……須田清子……二三
□榮養と食物のお話……佐伯永井博士編……二四
□處女と貯金……金森通倫……二七
□處女への御返事……二九
□孝女白菊物語……三一
□イソップ畫ばなし……岩佐聖華……三四
□いろは歌……菊地俊諦……三七
□日用熟字展覽會……三九
□講談「夜襲」……四〇
□燕ものがたり……四五
□處女新聞……四七
□皇太子殿下御成年式の盛觀……四八
□奠都祭と花の日會……四九
□處女文壇……五〇
□懸賞募集……五一
□編輯だより……五二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

處女會中央部設立趣旨

輓近地方青年及青年團教養の機運漸く熟し、之が指導啓發の機關設備頓に整備せんとするは、地方開發國運伸暢の上に慶賀に堪へざる所なりと雖も、飜つて彼人等青年の姉妹ともいふべき地方婦人を省みるに、その修養の機關甚だ乏しく、識者亦深く此の問題に關心する所なきが如くなるは、我等の甚だ遺憾とする所なり。抑々地方青年と地方處女とは、車の兩輪の如く、鳥の双翼の如く、地方經營の上に其の孰れをも偏重すべからず。如何に青年團體の活動に由て、地方青年の智識進歩し德性向上すとも、地方處女の修養自覺之に伴はざれば、地方の風紀完きを得ざるべく、延いて家庭改善の實を擧ぐることも至難なるべし。青年をして次の時代の善良なる公民たらしむることの必要なると同時に、處女をして其が好適なる配偶者たらしむることの必要も、亦言を俟たざる所なり。

殊に世運の日進するに伴ひ、或は農家の經濟に、或は副業の普及に、或は育兒に、割烹に、裁縫手藝に、禮法看護に、地方婦人の進歩向上に俟つべきもの頗る多く、彼等の責務使命月に日に重大を加へんとす。況んや歐洲の戰爭は、婦人の地位職能に一大革新を促し國家の運命も半ば婦人の實力の有無に由て決せられんとする實證を目前に示せるに於てをや。此の際、國家の根底をなせる地方町村の婦人を覺醒發奮せしめ、男子と相列んで個人的に國家的に修養努力せしむること、極めて〱切要なり。

近時、町村處女會の設立せらるゝもの漸く多きは、蓋し時勢の然らしむる所なるべく、歡喜に堪へざる次第なるが、然も之を、男子青年團體の發達普及に比すれば未だ日を同じうして語るべからず。此に於てか、我等は尚一層地方處女會の設置を促進し、地方處女の修養に資し、自覺を促さんが爲め、東京に處女會中央部を設立し、以て全國各地方處女會の相互連絡を圖り、其擁護啓導に努め、或は地方處女會に對する巡廻講演を開始し、或は處女會指導者の講習會を催し、或は地方婦人問題に關する世人の注意を喚起し、或は出京する地方處女の爲に職業紹介其他の方法により便宜を與へ、更に進んでは移民植民の計策を講じ、地方振興の根本に策應し、之を小にしては地方婦人の爲めに幸福なる前途を開拓し、之を大にしては國家根本の活力充實に貢献せんとす。

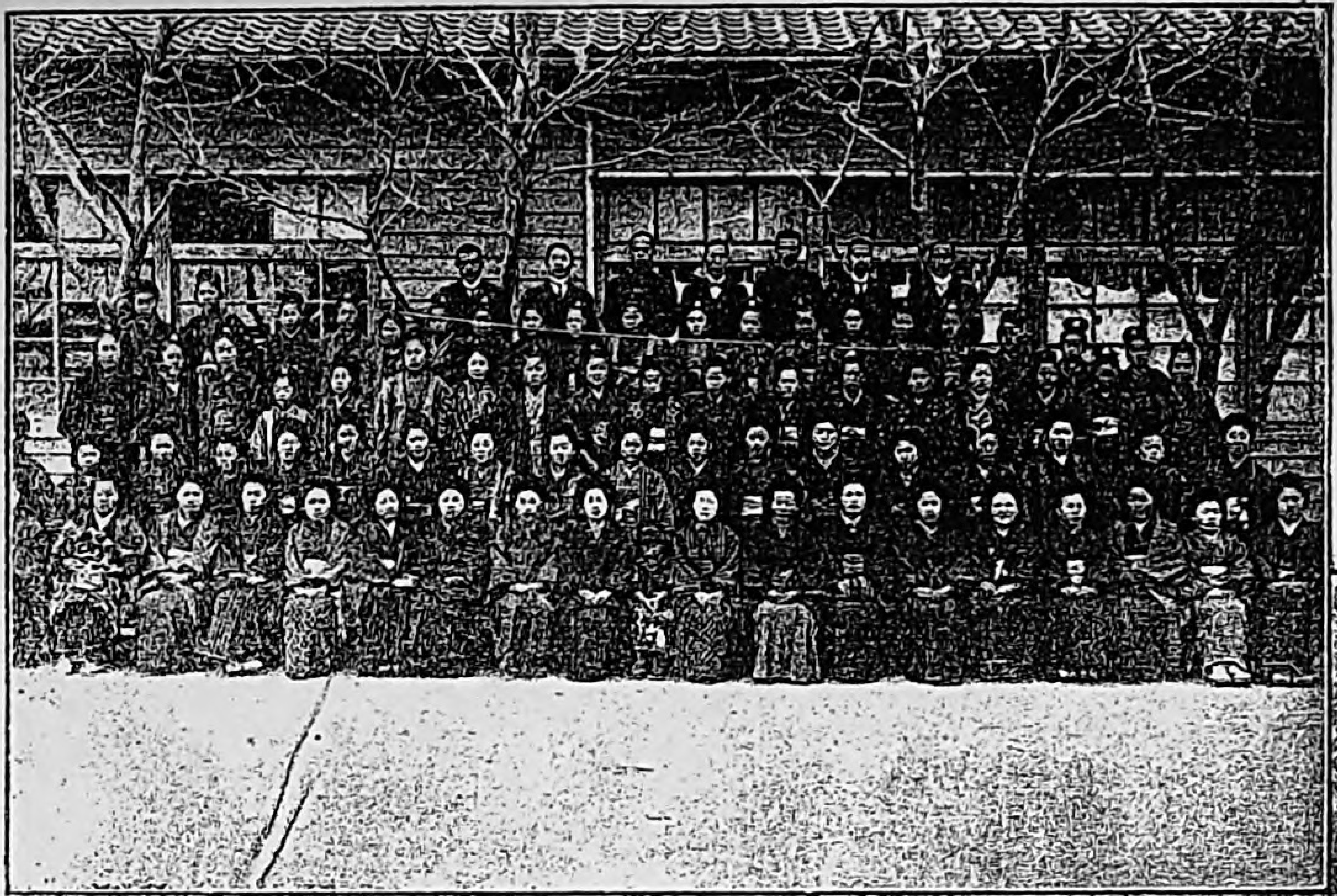
方今、都市の發達繁榮するに伴ひ、地方農村の荒廢著しく、妙齢の處女にして父祖傳來の農業を嫌忌し、都門の幻影に憧れて、目的もなく出京するもの頗る多く、延いて地方青年男子の愛郷心をも沮喪せんとする傾向あるは、少しく農村の實情を知るもの丶熟知し且憂ふる所なり。如何に男子青年團體が剛健素樸の氣風を養成するに自ら努むとも、彼人等青年の對象たる地方處女にして、虛榮の風に憧れ驕奢の態を喜ぶが如くんば、地方改良の目的を達すること至難なるべし。

斯る見地よりするも、處女會の設置は刻下の急務たること瞭乎たり。而して、之が設置を普及せしめ、之をして堅實なる針路に向はしむる爲めの處女會中央部設立は、一層刻下の急務なりと言はざるべからず。江湖諸賢、希くは、國家の根本的發達を期する趣旨に於て、我が處女會中央部の設立に贊成せられんことを。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

地方處女會の活動

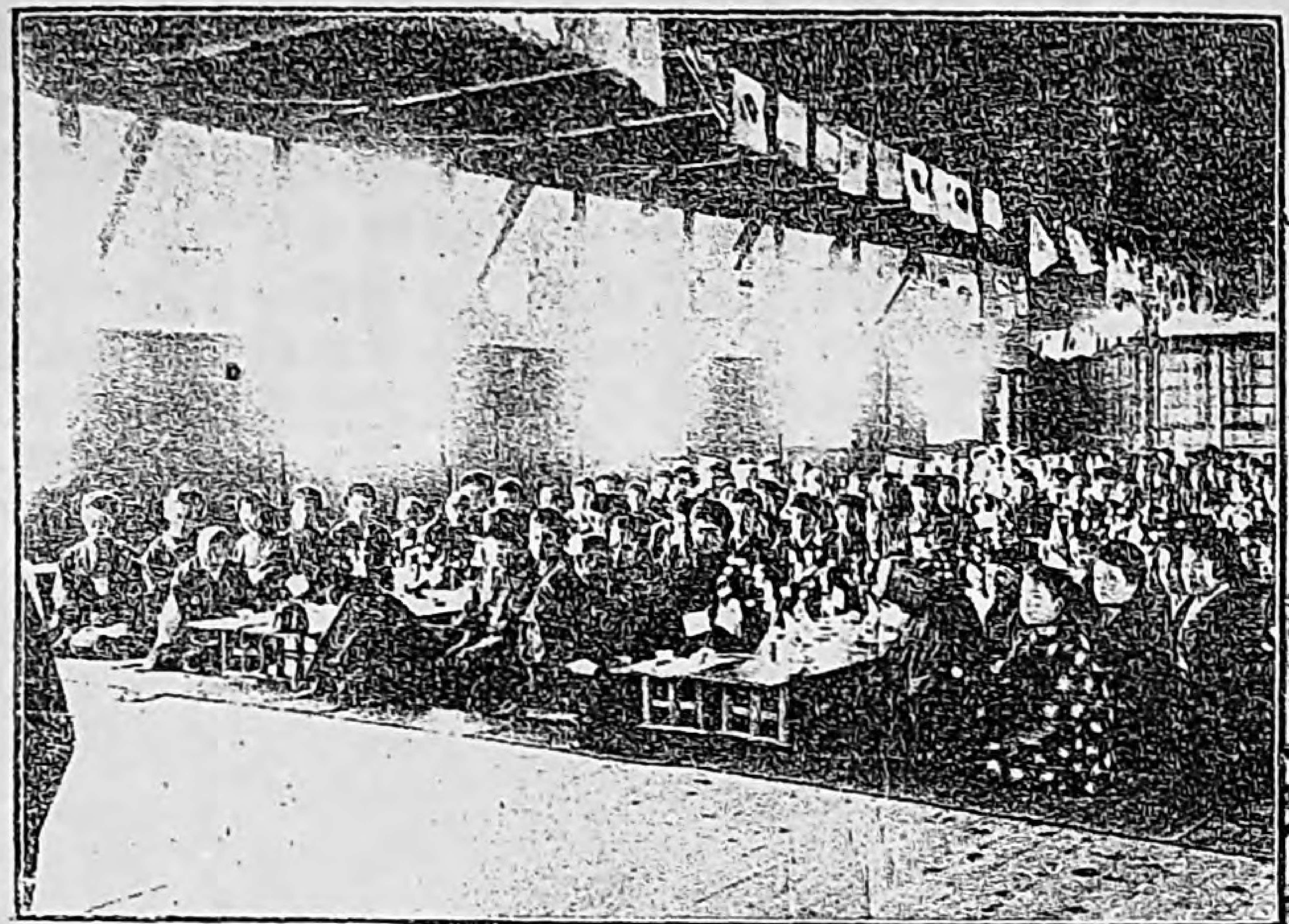
靜岡縣小笠郡朝比奈村處女會



靜岡縣の田方郡の稻取村は有名な村になつて居りますが、此處女會は日本一の古い處女會として知られて居ります。そんなわけで靜岡縣は一般に處女會が盛であります。わきてゝ小笠郡は非常な發達で全町村に渉つて設置せられ校長村長有力者などのお世話でまじめに村の爲に盡くなます。てし全郡に渉つてこのように發達しますれば、申し分ないと思ひます。こゝに掲げましたのは其の中の二つで何れも成績のよろしい處女會であります。仕事は補助敎育、家事實習、體育奬勵、公共事業などが主なるもので二つとも總會の記念にとつたのであります。

靜岡縣小笠郡[illegible]村處女會總會

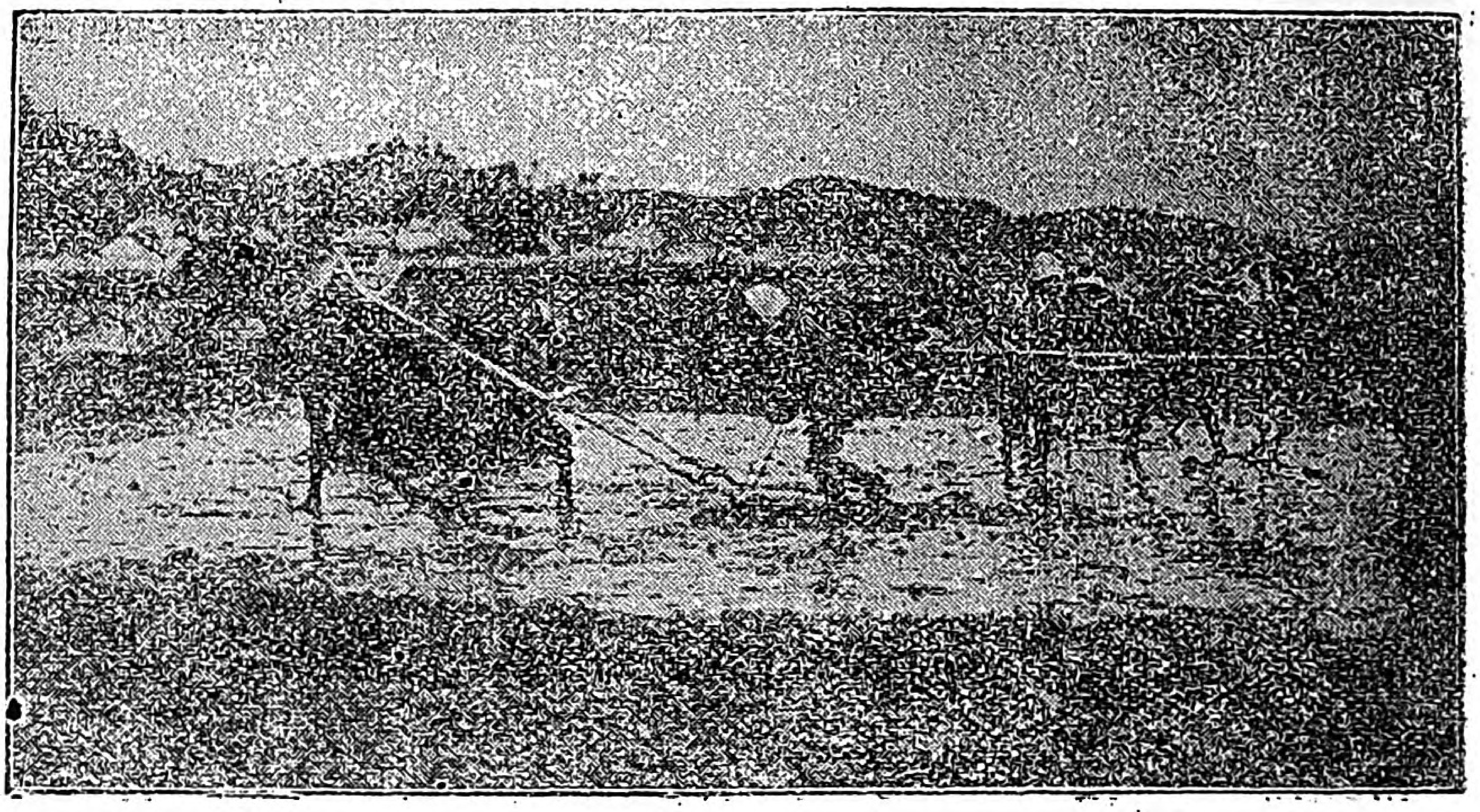
農村女子視察團と敬老會



大分縣日田郡婦人團の農事視察

滋賀縣蒲生郡金田村處女會主催の敬老會の模樣で前號に詳しく記事が出てゐます。お老人が會長のお話を伺つてゐるところをうつしたのです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



田舎の忠臣

野も山もみどり色深く生氣がみち〳〵てゐます、「そらしつかり」農父は愛馬をはげませて田をすき返してゐます、あとにつゞいた娘さんのかい〴〵しい働きをごらんなさい、馬も勇んでゐます。

是がほんとうの勉强、ほんとうの學問です、一家心を一にし、一鄕力を合せてお國の富を增す爲にまじめに働く、是こそ御國の忠義であります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

強く優しくまじめに働け

一、處女會訓

地方青年會で會訓を設けてゐるところが多うございます。處女會でも其地方の特色や風俗習慣などを酌んで、會訓をこしらへてゐる處が少くなくありませぬ、中央部では、別に會訓を定めませぬが、ふだんから、地方の處女たちに說きすゝめて居りますことは、強く優しくまじめに働くといふ四つでございます。

二、身體も心も共に強く

第一に皆樣は強い人にならなければなりませぬ。身體ばかりではありませぬ心の強い人とならねばなりませぬ。精神と身體と兩方強い人がほんとうの強い人なのです。

皆樣は多く地方にゐらつしつて農業をなすつたり漁業をなすつたりしてゐらつしやる。又お宅に居られてもお家の爲に働いてゐらつしやるので、自然とお身體は丈夫な筈であります。是からは身體がもとで、弱い人は何事も出來ませぬが、殊に皆さまのお身體は皆さまだけのものでなく、子孫の爲のお身體であります。強い子供がどうして弱い母親に宿りませうか。然し身體だけでなく、心をしつかりともつことが大切であります。丈夫な身體にいつも健全な心が宿ると限りませぬ。おべこべに、私は身體は少しは弱くとも心がしつかりしてゐれば身體をもち直す位に考へてゐます。心が強いといふのは、がまん強いこと、辛棒強いことです。いろ〳〵の誘惑に打克つことも強い心の現れです。わるい青年や友達ばかりでなく、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

自分の心が自分を誘ふことがあります。心に打克つにも勇氣が入ります。つまり正しい道をふみ行ふ心が強い心です。

三、優しい心は女の命

次は優しい心をもつて欲しいと思ひます。弱いものを扶け、幼きものを愛し、生き物を憫れむ心も優しみです。花をみても美しいと思ひ鳥の聲に心を和らげ、野に咲く花をめづる風流の心も優しい心の現れです。優しい心から同情とか、慈悲とか、博愛とかいふいろ〳〵のよい行ひが生れます優しい心は女の生命です、女に此の心の乏しいものは、香ひのない梅のようにねうちがありませぬ

私共は青年にも優しかれと話して居りますが、處女は青年以上に優しくなければなりませぬ。青年は七分の強みと三分の優しみ、處女は優しみが七分強味が三分であらねばなりませぬ。

優しみが目に出ますと涙となります、頰に表はれますとゑくぼともなります。涙の多い人に赤い血が流れてゐます。血あり涙ある人がたのもしいのです。義に勇んで跳るのが血で情に燃えてあふれるのが涙です。

皆様は優しい娘さんとなつて下さい、優しい娘さんから優しい妻へ、優しい母へ！と優しい母から優しい子供が産れます。

四、まじめに働くこと

次にはまじめといふこと、皆様はまじめであらつしやる、家業がまじめでありますから、精神もまじめな譯です、着物も、言葉も、行ひも皆まじめでなくてはなりませぬ。まじめの反對はふまじめです。身分不相應のよい服裝をしたり、友達の陰口をきいたり、無駄口をきいたり遊び好きであつたりすることは、皆ふまじめです。よくいふ虛榮といふのは、ふまじめな慾から起ります。

皆様最後の勝利は必らずまじめです。正直に實直に正しい道をお進みなさい、困つても疚しくありませぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

勤王に咲く津山のうば櫻

内務省囑託　今井兼寛

今井先生は女學校長、郡長、理事官等をなさり、地方青年處女教育の熱心家であらつしやいます、今回民力涵養のお役目を負ひ、内務省の囑託を拜命なさりました。將來處女會中央部に對しても非常に御同情を下さることは一同の感謝に堪へぬことでムいます。

(一)庭の碑文

七八年前のことでムいます。中國を視察致し、縣廳の方のご案内で美作津山の大津樓に泊りますと、庭の碑に『以レ義迎レ之以レ信接レ之』大津樓かめ女の爲に、桃中軒雲右衛門』と刻んであります。其中品のよい婦人がお茶をすゝめに來られたので、

あなたはおかめさんと仰言いませう。

と申しますと、

どうして私の名前を御存知で爲らつしやる。

とおどろき顔でムいます。

(二)化物屋敷

この婦人は今こそ津山第一の大旅館の主人でありますが、其の今までの經歷をきゝますと、實に人知れぬ苦心變化がムいます。

かめ子どのはもと巡査の奥さんとして、貞節を盡されましたが、一日御主人は滿面に喜色を湛へてお歸宅になりました。其は豫てのお望みの警部に御榮轉になつたからでございます。其時の月俸は十五圓だつたと申します。然し御兩人は之に滿足なさらず且つ三人の御子供の將來を考へられ、ひとつ方面を換へて血と汗とを資本として、新らしい生命を開拓しようと御相談の上、警部を辭されました。

其頃町に化物屋敷と呼ばれ、誰一人借手のない家

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

屋敷がありました。文明の世の中にそんな妖怪沙汰がある筈がないと、御夫婦は御丹精の貯蓄を以て其のお化屋敷を借り受け煙草店を始めました。

(三) 十二時過は酒なし

何しろ一心な上にもと警部であつたといふ所からよく繁昌しまして、忽ち評判の煙草屋となり、警察署や縣廳の方のお得意も次第に殖えて參まして、馴れるに從つて碁をうつたり談話したりして、遂には懇意に任せて菓子や酒などのなかだちをもするようになりました。

之が今日の大津樓の始まりであります。今でも御主人は其の横で煙草店を出し、旅館の方は奥さん一人で主もに働いて爲られます、料理屋をも兼ねて爲られますが、十二時過にはお酒は一切出しませぬといふきまりをこしらへ、其の代りお客に對してはどこまでも親切叮嚀を以て接しますので、ます〳〵評判になりました。

(四) 院の庄にお寄りならずば

新派役者で名高い川上音二郎氏が津山に參りまして、其の歡迎會が催されました。かめ子どのは接待役にたのまれ、酒盛りの席に出ました。すると正面に日本一との評判の音二郎優が座つて居り、周りには土地の重な人達が星のように居並んで爲ます。

美しくて氣品の優れたかめ子どのは、主賓の盃になみ〳〵とお酒をついで、改まつて申しますよう、失禮でムいますが、あなたさまは院の庄にお詣りになりましたか。

院の庄と申しますのは、後醐醍天皇が隱岐におうつりなさいます時の行在所で、兒島高德が櫻の樹を削つて詩をかいたといふことで有名になつて居ります。

いや院の庄には寄つて參らぬ。

と何氣なく音二郎優が答へますと、かめ子どの丶顔はみる〳〵變つて來まして。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

何んですと、院の庄にお寄りないとは。音に聞えたあなたとも受取れませぬ。あなたは畏れ多くも皇后陛下（昭憲皇太后）の御前で兒島高德の芝居を御やりになつたことをよもやお忘れなさらぬでせう、其の名高い院の庄は目の前ですのに、御立寄りなさらぬとは何事でムいますか、しかも勤王の忠臣高德を祀りました櫻神社は荒れ果てゝ居りまする、其の神社の目の前で、この酒もりは何事ですか、もう私は此席を御辭退仕ります。

龍眉を逆立てのかめ女の熱言に一座は白けてしまひました。

（五）赤き心の米山節

一時はおどろきました川上氏もなるほど〻誠に打たれ、

どうぞおゆるし下され、そなたの言はる〻こと至極ご尤、善はいそげ、いざ是よりその院の庄に御詣り致さう。

と一座總立となり急に人力車を仕立て〻忠臣の遺跡に參詣致しましたが、川上氏は卽座に三千圓を神社修繕費に寄附申し出ました。

參詣を畢つて川上氏は大津樓に泊まりました。かめ子どのは大變の喜び、十分にもてなしましたが川上氏の喜びは其れ以上で、其の夜は心地よくお酒に醉ひ、幸ひかめ子どのが米山節が上手なので歌つて貰ふことになりました。

眞のやみ夜に櫻をけずり
天勾踐を空しうする勿れ
時に范蠡なきにしも非ず
赤き心をサ、墨でかく……

淸く朗らかな歌ひ節に、うつとりと聞き惚れた音二郎氏は興に乘じて席を起つて、床の間を舞臺に、床の柱を削るまねして卽席の芝居をやりましたと申します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

眞に美しい處女

山脇高等女學校長
處女會中央部理事　山脇房子

美しい處女は、家族にも、お友達にも、親類の人にも、世の人にも愛されます。皆樣も、どうかさういふ美しい處女になつていたゞきたいと存じます。しかし私の申しまする美しい處女とは、容貌の美しいといふ意味でなく、また着て居る衣服の美しいといふ意味でもありませぬ。容貌や衣服が何程立派でも、内部の精神が美しくなくては、ちやうど錦の嚢に瓦の片を入れたやうなもので、嚢が美しいだけ、餘計に中の品のお粗末なのが目だちます。私の申しまする美しい處女といふのは、精神の美しい處女のことでございます。

目鼻だちは生れながらのものですから、どうすることも出來ませんが、併し精神が美しいと、目にはやさしい光が湛へるやうになり、口元は自然に引きしまつて、どことなく愛らしい、悧巧らしい容貌になつて參るものです。それと反對に、いくら容貌の美しい人でも、精神が美しくないと、目には優味がなく態度や樣子は人を侮るやうな風があつて、多くの人に愛せられることはないものです。ですから、皆樣は精神の美しい人になるやうお努めにならなければなりませぬ。

では、精神の美しい人になるにはどうすれば宜しいかと申しますに、第一正直でなければなりませぬ。叱られたり、笑はれたりするのが厭さに、自分の過ちを隱したり繕うたりしてはなりませぬ。過ちをするのは素よりよくありませんから、充分氣をつけて過ちの無いやうに致さなければなりませんが、その過ちよりも數倍惡いことは、それを隱し立てしたり、噓を言つた

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

りする事であります。
次に、他人を羨んだり妬んだりしては、精神の美しい處女にはなれませぬ。他人の幸福は共に喜び、他人の不幸は共に悲しみ、同情を以て人に對するやうに致さなければなりませぬ。私の知人に、當年十六歳になる芳子といふ娘があります。容貌は十人並ですが、その心がけの優しくて、人に對して親切なこと、實に珍しい人でございます。父は小さい商人で、家計の餘裕もありませんから、平生の衣服などはまことに粗末なものですが、一向氣にしませず、他の富豪の令孃が、衣服でも持物でも立派なのを、少しも羨む樣子は見えませぬけれども、其の阿母さんは氣の毒に思はれまして『お前もさぞあの方のやうなきれいな衣服がほしいでせうに』と同情して申されますと、芳子さんは首を振つて、『此の間學校で先生のお話には、身分の高貴な皇族樣方の御生活が恐れ多いほど御質素であらせらるのに却て下々のものたちが己の身分も省みず贅澤を仕て居る、是は相濟まぬことだと承りました。私達があんまり立派な衣服等着てはすみませんから』と申ましたとか、阿母さんのお話でした。この芳子さんは、こんな大人びたことをいふ一方、また大層無邪氣で、快活で、いつもニコ〳〵して面白さうに元氣よく物事を致します。それから又、氣の毒なお友達に對しては思ひやりが深くて、いつぞやお友達の阿母さんが亡くなられた時など、お悔みに行つて歸つてからも、御氣の毒ねー今頃どうしてゐらつしやるでせうなど〻言つて、御飯も常のやうにたべないでお友達の身の上を案ずるといふ風です。この芳子さんなどこそ本當に美しい處女でございます。

それから、美しい處女には尚一つ、精出して働くといふことが必要でございます。
前申した芳子さんは、今女學校で勉強して居りますが毎日學校から歸りますとすぐ袴や着物を脱いで疊んでおいて、イソ〳〵と阿母さんの仕事を手傳ひ、妹や弟たちの世話をよくいたします故、家族中の者が皆で芳子さん〳〵と愛し慕つて居ります。だれも斯くありたいものであります。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

英國の少女會

東京女子大學々監　安井哲子

只今巴里で開かれてゐる講和會議の大立者、ロイドヂョージ氏は、英國ウエールスの生れです。此のウエールスの人達は、同じく英國人でありながら、普通我々のいふ英國人とは人種が異つてゐて、大變音樂を好み、其國固有の樂器たる立琴を彈いてよく唄ひます。私はそのウエールスのカーディフといふ街の近くに居た事があります。其の附近から、石炭が澤山出るので荒くれ男の工夫達が澤山居りますが、其の工夫達も非常に音樂を好んで、土曜や日曜にはよく音樂の練習を致しました。そして十二月二十五日のクリスマスになりますと、彼等は團體を作つて附近の街へ出て、好きなクリスマスの歌を美しい聲で唄ふのを樂しみにしてゐました。私は其處に居る間に、可愛い少女達の祝賀會に招かれた事がありますが、是から其のお話を致さうと存じます。

ウエールスの女は、目が藍色で肌が白く、顔が圓顔が愛嬌があり、大變可愛らしい顔をしてゐますが、着物は普通の英國人と違つて、寫眞の樣な洋服を身につけ、頭には男の被るような帽子を被つて、一寸と異樣な容姿をしてゐます。其の娘達は、頰が赤くて本當に可愛う御座いました、然しねが石炭堀りの工夫達の多い田舍だけに、學校も小學校だけで終り、家庭の躾なども至極無頓着な、謂はゞ無教育者が多いのです。

處が其頃、長い間日本の農村等を視察して歸つた女の教育家が、カーディアの近くの村に居ましたが、其の婦人は、日本の女の世帶持ちのよいのに感心して、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ウェールスの女もあのやうにしたいと思ひ、先づ小學校の上級生の女兒二三十名を選んで、其の教育にとりかゝりました。勞働者の家庭の子達ですから、髮は亂れ勝ちで手入れもせず、前掛は洗濯もしないので汚なく、着物の綻びも其儘で至つてしだらのない、有樣でしたが、先生はそれ等の身繕ひをキチンとさせる事から初めて、更にお家に赤ン坊のない子にはわざ〳〵他所の赤ちやんを借りてまで學校へ連れて來させ、抱き方だの、世話の仕方を實地に敎へ、又泣き方によつて赤ン坊が何を求めてゐるのかを聞き別けさせたり、或ひはそれを賺しなだめる事まで敎へました。

英國の少女たち

さうしてゐる間に一年は過ぎました。少女達は見ちがへるやうにキチンとした容姿となり、家事の手傳でもナカ〳〵上手に出來るやうになりましたので、親達も皆滿足致しました。そこで、創立一年の記念をかねて、ビクトリア女皇樣のお誕生の祝賀會を開きました。折柄私も其の先生とお交際いたして居りましたので、御一緒に其の祝賀會に招かれましたのです。

年の頃十三四の、色白な頰の赤い、そして美しい金髮の少女達の集りは大變美しう御座いました、皆は學校のお蔭で大層キチンとした風をしてゐました、彼地で斯ういふ會には、先づ自分達の仲間で會長の樣な者を一人選び、それから役員をきめたりして色々の相談會を開きますが、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

澤山の大人や先生、それに私の樣な外國人を前にしてハキ〳〵と手際よくその相談をまとめてゆきましたには、私も驚かされました、私は日本の少女達と較べて見て、本當に豪いものだと感心しました。それから其の少女達は、私に、自分達と同じ年頃の日本の少女はどんな事をしますか、などと色々の質問を出しましたから、私は一々丁寧に說明して上げましたが、皆はよろこんで聞きました。

やがて少女達の手になつた御馳走も出ました。その材料はお家の方々の寄附されたものださうでしたが、仲々美味しく出來てゐました。

私は一々感心させられましたので、詳しく色々尋ねて見ましたが、其の少女達は、お父樣の洋服の洗濯もしますし、釦のとれた處へは釦もつけ、又お家にある勝手元のお道具等で壞れてゐるものがあれば、それを學校へ持つて來て修繕するとか、學校でなし得るものでお家の爲めになる事は何でもします、學校もまたさうさせる樣に導いてゐるとの事でした。

私は日本の少女達も、年がいかなければいかないだけに、又役に立つ仕事もある事故、さういふ心掛をもち、又暇ある場合はお友達同志で爲になる本を讀むとか、或は先輩や先生がたから、よいお話を伺ふ樣に、時間の無駄費ひをやめ、する事は誰かの爲めになる事であつてほしいと思ふのであります。かうして知識を磨いてゆけば、どういふ所に住んでゐても、張合のある樂しい生活が送られる事と存じます。

安井先生はもと女子高等師範學校に敎鞭をとつて居られ只今は東京女子大學の學監をなすつてゐらつしやいます。處女會に對しても常に御援助下され發會式にも御列席下さいました。是から時々皆さんに爲になるお話をなすつて下さるといふことは誠に仕合で厶います。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

勞働は卑しいことか

天野藤男

□働くことは卑しいか

是から田舎は忙しくなります、養蠶をするお家もありませうし、お茶つみをなさる方もありませう。田畑の手入に陸物のとり入れに、田舍は是から戰爭です。何事に拘らず、仕事に追はれてヂッとして居られぬようなことを、忙しいと申します。皆様はいつも忙しく暮らしてゐらつしやることゝ思ひます。是から一層忙しくお働きなさるでせう。さて忙しいといふことは不仕合せでせうか、働くといふことは、卑しいことでせうか。

□働く人に幸宿る

『あの人は羨ましい、毎日遊んでゐる』といふような話しを聞くことがあります。お金も澤山あり、立派な家に住んでゐて、遊んで居られる人はなるほど仕合せのようであります、然し、いつも申すことですが、人のほんとうの幸不幸は、うはべばかりでわかるものでありませぬ。

毎日何もしずに暮してゐる人の顔色をごらんなさい。顔の色の惡いのは、心に心配がある證據です。火鉢の横によい着物きて座つて、何もしずにゐる奥さんを、唯遊んでゐると思ふのは大間違ひ、身體こそ遊んでゐるが、頭の中に非常に働いてゐるのです。身體を働かせると顔色がよくなり、ごはんもをいしく、頭や心を働かせてゐると、顔色が灰色になり、ごはんが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

おいしくなくなります。其の代りお藥と仲よくなりますが……

ヂッとして考へて早死をするのが仕合か、たのしく働いて長命するのが仕合か、よつく考へてごらんなさい。

□自然の神さまに仕へて

勞働者の問題がやかましくなりました。農民は勞働者でせうか。皆樣は勞働者の娘さんですか。

皆樣は、たとへどんなに身體を激しくお使ひになつても、どんなに忙しくつて、勞働者 ではありませぬ。立派な敎育者であります。宗敎家であります。第一皆樣は自然の神に仕へてゐらつしやる、さうして其のお指圖に從つて、淸い〳〵仕事をしてゐらつしやる。種子をまくにも、果を結ばせるにも、土を離れては何も出來ませぬ。土は正直なもの、淸いものです。之を何よりの資本とし、之に勞力を拂ひ込み、此上に程よい雨、程よい風を神樣から授つて、始めて立派な作物をつくります。一株の稻を作るにも、一歩の麥を丹精するにも、親が子を愛するやうな慈愛と熱心とがなくてはいけませぬ。愛せらるゝものはきつと育ちます。いかによい肥料をかけても、丹精がなくては出來ません、丹精は愛情です。

□農民の誇

よし狹くとも、思ひ出深いわが家に住み、父子兄弟一つ心になつて廣々とした野山に働く、こんな仕合なことはありません。都會では、商店などを除き、親子で一つ仕事をすることは容易に出來ません。たとひお料理は少くとも、新鮮です。家は藁家でも畑は廣い。皆樣は立派な敎育者です。蓑をきても、泥に染つても、決して卑しいと思つたり、はづかしいと考へてはいけません、自分の仕事をするに都合のよい着物を着るのが一番よいのです、お役人は洋服に靴がよいし、商人は鳥打に前かけがよいし、お百姓は紺の股引に草鞋がよいのです。何事も自然でなくてはいけませぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

端午と雛祭

五月五日は端午といひ、昔の五節句の三番目のお節句でございます。男子のある家では武者人形を飾つて其の子の前途を祝ひます。若葉の匂ふ五月の空に鯉のぼりが跳つてゐるのは勇ましいものであります。

三月三日の雛祭も五節句の一つで是は主もに女子のお節句であります。雛壇を設け雛様を飾りつけ、白酒をそなへ、草餅をさゝげて女子は永き日を餘念なく遊び興じます。

可愛い雛を祭る雛祭が女子のお節句で、勇ましい武者人形を飾る端午が男子のお節句として、古から行はれてゐますのは、誠に意味の深いことでございます。

●●●

雛は優美と從順の結晶で、之を飾つて遊ぶのは、其の優しい心にあやかりたい爲と思はれます。又草もちをつくり、豆をいり、お友達を

子守うた

れんれん寝ろ子になにさらしよ
銀の小鈴を綾糸に
星のかずほど貫きさめて
朝のおめざに鳴らしましよ

*

れんれん寝ろ子に何さらしよ
竹の小籠に草の花
かずの彩色つみいれて
晝のめざめに散らしましよ

*

れんれん小山の小うさぎも
日くれてねむる森の中
坊やは鈴や花ぐさを
夢にみながられんれんしな

○

坊やのお國はよいお國
後ろはお山で前は海
魚がをどれば鳥が舞ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

招き合ふ間に、自然と禮儀を辨へ、又料理のしかたを覺えます、つまり雛祭は母たり妻たる娘にとつて其の修養の機會であります。雛祭をたゞ幼兒だけのお節句とせず、處女のお節句としたいと思ひます。
端午は雛祭に比べますと、時候もよほど溫く新綠の氣がみち〳〵てゐる愉快な時であります。雛祭りには桃の花が咲き亂れます、端午の花は菖蒲、桃は乙女の唇にもたとへられます。菖蒲は勇ましい菖蒲力に――。

雛祭を處女の修養的娛樂にしたいと同じように、この端午をば青年會と結びつけて欲しいと思ひます、たとへば此の日に運動大會を催すとか、遠足をしますとか、又は討論會をするとか有意義に活用したいものです。昨年の五月五日には全國青年聯合大會が東京に開かれました。處女會の中にも三月三日に發會された地方が澤山あり、又このお節句に大會を開き、敬老會を催うし、作法の講習會を開いてゐる地方も少くありませぬ。ゆかしいことに思ひます。

∴

世の中が開け進んで、婦人の地位も高まり、其の職業の範圍も廣められて來ました。此からの社會問題は婦人の問題と勞働者の問題とであるとさへ言はれて居ります。日本の婦人も次第にめざめて來まし

月がしづめば日がのぼる

＊

春は日傘に花の雪
蝶と蝶との舞ひ姿
可愛いおててをかざしたら
お山のほどに積りませう

＊

夏は小川の夕闇に
星の流れの螢狩
招く團扇にチラと來て
坊やの顏をてらします

＊

秋は青空スイスイと
赤い蜻蛉の飛び交うて
ほした坊やのおべべにも
ひいふうみいと止つてる

＊

冬は炬燵にかあ様と
冷えた手足をあたためて
昔ばなしのおもしろさ
外には雪がふつてゐる

○

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

た。地方の婦人も自覺して來ました。
然し日本の國には日本の習慣があります。惡い風習は改めねばなりませぬが、外國にかぶれて、よい風習まで捨てることは、嘆はしいことであります。婦はどこまでも女らしく、男はどこまでも男らしくあるのが双方の仕合せでありませう青年が健全なる父となり、處女會員が立派なそのお嫁となり、共に力を合せ、男女各其の分に從つて家を興し町村の爲に働くのがお國の爲であります、妻となり母となることは、何寄りの職業なのです。家を外にして働いたり男子と同じような仕事についたりすることが必らずしも幸福とは申されませぬ。強い男らしい男と優しい女らしい女こそ、清い家庭をつくる素であります、家を外にして働く爲に十分に子供の面倒をみることが出來なかつたりすることは、大へんな不仕合ではありませんか。
昔々物語の一節に
三月は男子は鷄合せとて鷄を持ち出して出會ひ女は雛遊とて雛をかざり食事を備へ色々の諸道具を飾り草餅を雛の行器に入れ、甘酒を錫の器に入れ、小蛤等澤山に節句の禮とて雛を乘物に乘せ樽行器持て親類の親分へ遣す是は成人の時娶入して世帯持つ稽古なり。

れんれんなされ　坊やはかわい
可愛い坊やのれんれのひまに
機も織りましよ夜業しましよ
坊の寢顔も覗きましよ
わたし許りかお月さまも覗く
覗きや疊に松の影
松の影には松露がござる
チムリチリチリ笛を吹く
笛を吹くなら太鼓もならせ
ならす太鼓で目をさませ
一ツ一人でをさなしく
二ツふた親大切に
三ツ身のため人の爲
四ツよしあしわきまへて
五ツいつでもすこやかに
六つ無益のことをせず
七ツなんでも辛抱して
八ツやさしく心がけ
九ツこがねの花さいて
十デ常盤に榮えます

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

□群衆心理

〔解〕一人一人別々になつては、考へ及ばないような事柄を、大勢集ると、ツイやつてしまう、このような時の大勢の人の心持を群衆心理といひます、昨年の米騷動の時にも相當の分別のある人がツイ面白半分に石を投げたりしたものがあつたのです、是など群衆心理に動かされたよい例です、

□官僚政治

官吏が上官の命を受けて國の政をすることで元來惡い意味はないのですが、どうかすると官吏が人民の心持をよく酌みとらず、自分だけの氣分でツイ我儘なことをするので、官僚政治が嫌はれるのです、民本主義はこの反對にどこまでも民意を本とした政治のしかたなのです、

國の政治のみでなく、一般に上から下へ命令しゆくことを、官僚的と申します、處女會でも處女會員がみんな一つ心で仕事をしてゆけばよいのですが、會長から命令せられて、しようことなしに仕事してゆくようなときには、あすこの處女會も官僚的だなどゝ言はれます、

□サラリー

給料、手當のことです「あの人は今度サラリーが上つたよ」などゝ用ひます

□國際聯盟

世界の國と國とが仲をよくし、戰爭など決してしないように約束し合ふことで、平和同盟とも申します、人と人が喧嘩をすればとめる人もあればまた惡るい方は、國の掟で罰を受けます、それだのに、國と國との爭ひを仲裁したり、裁判したりするものがない、そこで戰爭が起るのです、國際聯盟が成り立つと世界は平和になります、然しどうなりますか講和會議がみものです。

□普通選擧

代議士を選擧するのに、選擧人に資格のきまりをこしらへずに、廿歳廿五歳以上抔一定の年齡に達したものには、唯にでも選擧權を與へて選擧をさせるといふことです、日本の國は日本國民が集つて作つてゐるのであるから、人民の全體が國の政治に與る權利をもつべきものです、然し其にはもう少し日本人の政治についての考を高めてゆかなければなりません。其ですからゆく／＼は普通選擧になりませうが、今の所では、少しづゝ租稅の額を低くして、選擧人を殖やしてゆく方がよいといふことで、本年の議會では直接國稅を三圓以上納めてゐる公民に選擧權を與へるように、政府では骨を折つて議會で可決されました。

亞米利加や英吉利では、女にまで選擧權を與へて居ります。女の代議士も出來ました皆樣は其をどう思ひますか。

□公民の資格

公民といふ文字が時々出ますが、公民となるにはどんな資格が要るかと申しますのに

一、日本の臣民であること
二、獨立の生計をしてゐるもの
三、二十五歲以上であること
四、男子であること
五、二年以上其の市や町や村に住んでゐること
六、二年このかた其の市や町や村の負擔を負ふてゐること
七、二年このかた其の市町村で地租を納め又は直接國稅二圓以上を納めること

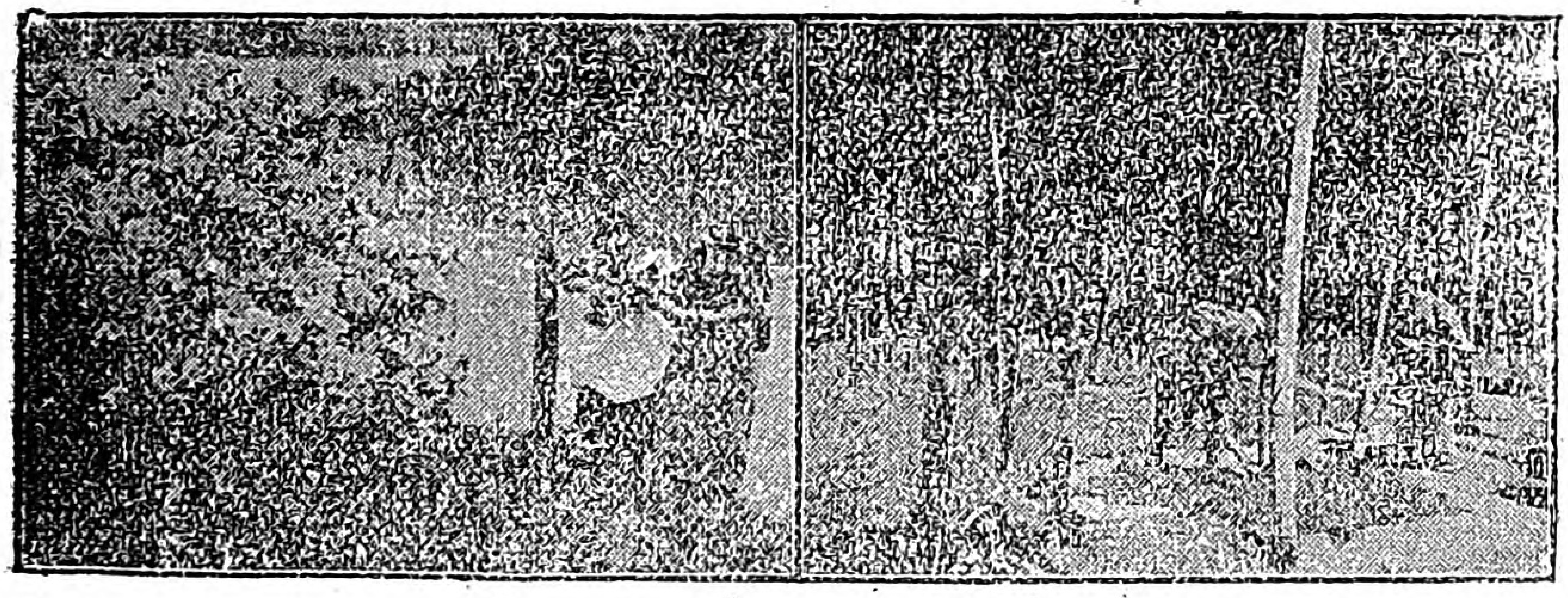
これだけの資格のある人は、公民であります、市町村の公民は市町村の役員を選擧し、又名譽職に選擧せられる資格があるのです。皆樣は公民になることは出來ません。然し立派な公民の妻になり母となるやうに、今よりつとめはげまなければなりません。

□社會政策

今の世の中の組織にはまだいろ／＼の不都合な所がある其を改めてよくすることであります。めいめいの力を十分に養ひ强くし極く富めるものと極く貧しいものとないように、世の中の人が皆暮らしが樂になり、一生懸命働いてそうして食つてゆかれぬといふ人をなくせる手段方法であります。地主と小作人の折り合をよくしたり、資本家と勞働者との間を圓るくしてゆくことなど社會政策の一つであります。

質問隨意　常識、法律、交際等の質問に應ず

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



きのふけふ

（一）筍

春がすみたなびき、櫻の花咲く四月ものどかですが若葉の萠え、青葉のしげる五月六月の頃の風情もなつかしいものです。あの竹藪の筍をごらんなさい、親の惠みと、天地の愛に浴して、勢よく、まつすぐに、土を破つて跳り出る筍を。

皆樣はあの筍のように、まつすぐに、すなほにおのびなさい、今の中は、あまりくよ／＼せず、物事に頓着せず、正直に元氣よく、天まで屆くような氣持で成長しなさい。

筍に鋤かりにくる庵主かな

竹の子の力を誰にたとふべき

（二）つつじ

青葉のしげみの中に、血のような鮮やかな色をしたつつじをみつけましたときには、目ざめるようであります。

散りのこるつつじの蕊や二三本

山鳥やつつじよけゆく尾のひれり

日比谷公園のつつじは、きのふけふはまつさかりで電氣ぼんぼりをともして、市民の夜のすゞろあるきの興を添へて居ります。一昨年父に伴れて上州館林のつつじを見に參りましたが、大變美しうございました

み山がくれのつつじでさへも
もゆる思ひの花に咲く

（三）蛙

手をついて歌申上る蛙哉

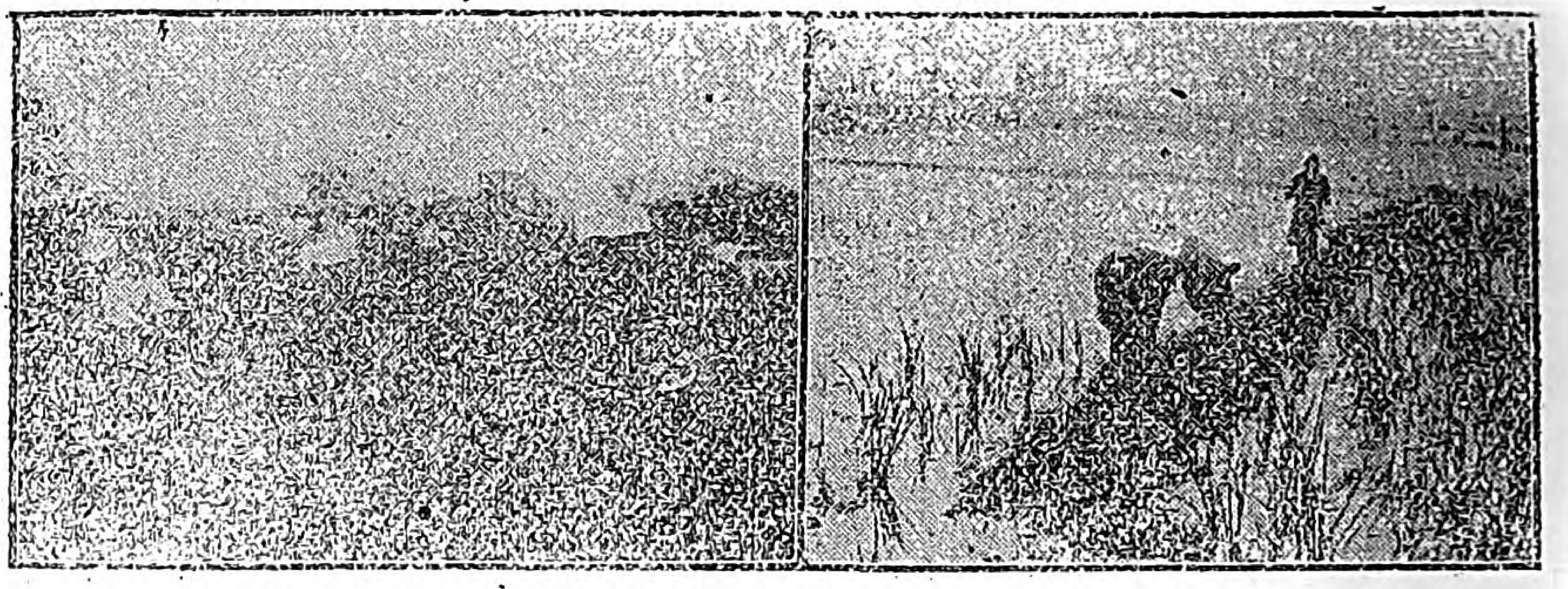
ふと飛んで後に居直る蛙かな

五月から六月ごろにかけて小田の蛙は聲さま／＼に友よび交して鳴き合ひます。私は蛙の邪のないあどけない樣子を好ます。蛙は愛嬌物です。だから芭蕉や一茶のような俳人にも愛されます。

古池や蛙飛び込む水の音

痩蛙まけるな一茶此に在り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



夕がた心をしづめて鳴くのを聞いてゐますと、なんとも言へない氣分になるときがあります。

　かしましく啼てさびしき蛙かな

小野道風は、青柳に飛びつく蛙をみて發奮してとう／＼能筆のほまれを博したと申します。畫にも歌にもかゝれよまれて蛙はほんとうに仕合せものであります。

賴山陽は

　井戸の蛙を誹らば誹れ
　　花も散り込む月もさす

田舍ッぺいと馬鹿にするならしろ、庭は狹いが櫻がある。春風が吹くと花が家の中に散り込む、夜になると椽側にねころんで月見が出來る。家は藁家でも雪月花の眺めは自由だ、心がのび／＼してゐると、田舍の暮らしを誇つた山陽先生のお唄なのです。

（四）お茶つみ

若葉のもえる五月ごろ、山城や駿河路を旅します人は、野に畑に山に白い姉さん冠りに赤い襷かけた娘が小籠さげよい聲して唄をうたつてゐることをご存知でせう。あれがお茶つみ娘で唄が茶つみ唄。

あれに見ゆるは茶つみぢやないか
　茜だすきに菅の笠
お茶をつむ時や茜のたすき
　今度五月にや黑だすき

田園處女の意氣を見よ。都のお孃さんの指には指環が光る。田舍の處女の指からは二千萬圓のお國の富がかせぎ出される。

宇治は茶所茶の緣どころ
　娘やりたや婿ほしや
お茶もつめ／＼つまればならぬ
　つまにや駿河の茶とならぬ

柔順なる田園處女のつんだ其のお茶を、剛健なる田園青年がほいろで揉んでお茶にするのであります。

八十八夜の新茶は中氣にきくさうです。青葉の窓に新茶を酌んで昔語りするのはたのしいものです。

旅人に昔語りの新茶かな

宇治の新茶と寺田のふる茶
　出合ひますぞよ横はまが
赤い襷も伊達にはかけぬ
　かわい男の目印に
まゝよ田舍がまだ住みよかろ
　主と二人でくらすなら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

手向草

＝床次内務大臣夫人が亡き夫人への＝

床次内務大臣夫人清子の方の内助と大臣の御看護に就ては前號に御話し致しましたが大臣は亡き夫人を偲ばれて自ら筆をとられ『手向草』と申す小さな書物を御つくりになり御親戚や御知己に御頒ちになり私も頂戴致しました。奥さまと御一所になられた當時のことから御病中の御心づかひのかずかずが、お優しい心のまゝに現はれ、涙なしに讀むことは出來ませぬ。皆樣に其の一節を原文のまゝに御紹介致しませう。

大分縣西國東郡白野村處女會

結婚處女祝詞（一例）

本日ノ吉辰ヲトシテ豫テク成約ニヨル華燭ノ典ヲ擧ケラルヽニ當リ茲ニ本村處女會ヲ代表シ謹テ祝辭ヲ呈ス願クハ諸郎形ノ如ク整ヒテ礎固ク永ク琴瑟相合シテ鴛鴦ノ契變ルコトナク偕老同穴友白髮ノ齡保タレンコトヲ神カケテ祈ル處ナリ（中略）

第一　夫ニ貞節ヲ盡スヘシ

第二　舅姑ニ從順ニ仕フヘシ

◇

三日朝待ちに待ちたる土屋侍醫は、暫らくの御許を蒙りて來訪せらる、難有きことなり。されど命は如何ともなしがたく、土屋侍醫の診斷に、喘鳴（息づかひのごなり）強くなりて容體容易ならず、用心を要すと、一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

同心痛大に加はる。

午後四時三十分、全く危篤に陷りぬ。家族一同病床を圍み、母よ姉よと最後の別れを惜む。重ねて冬子の結婚夏子の入學等を話して聞かせければ、子供等も亦皆仲よく勉強しますから安心なされと呼ぶ。我は愈々最後に妻の手を握りつゝ、此上は安心してゆけよ、永い間お世話になつたネとの一言を、耳に當てゝ通せよかしと祈れり。皆々水杯をなして事了りぬ。逝くものは安らけく眠り、世にあるものは殘り惜し。

今更になき妻戀ひしこの春は
花も一しほさきそふものを

三日午後十一時、子女家族を妻の枕頭に集めて、なき母、なき妻は、我の貧書生上りの時に嫁ぎ來て此に二十九年、其の間一方ならぬ艱儀を共にし、今日にな

第三　家政整理ニ意ヲ注クヘシ
第四　子女ノ敎養ヲ重スヘシ
第五　處世ノ要ハ何事モ堪忍ト心掛クヘシ
右五ケ條ハ平素厳父慈母ノ訓戒ト注意トニ依リ十分ニ肝銘セラレ居ルコトナルカ老婆心禁スル能ハス爰ニ物シテ貴女ニ餞ス希クハ本村婦女ノ亀鑑トシテ永ク婦道ヲ完ウセンコトヲ

年　月　日　　　白野村處女會長

○○子殿

つて別れるのは、如何にも殘念であるが、病中に畏くも皇后宮より御見舞として御菓子を賜はるといふことは、我家にとりては始めてのことにして妻は勿論、家門の名譽この上なし。此母此妻にして此事あり、殘る我等はよく／＼この恩命を拜しては、懸命に勉強して君のお爲に盡くさねばならぬ。此事が亡き母亡き妻への最も好き供養なれば、よく／＼心得よと訓誡していねぬ。

四日　天氣花曇　午後六時入棺、是にて顏の見納めなり。さては幾度にてもあかぬ心地せられて、再び被布をとりて別れを告げぬ。あゝ吾が妻よとは、たゞ胸の内にて、涙の降るを覺えざりき。

今よりは妻におくれてたゞひとり
假りのよなれど淋しかるらむ

ふりしきる涙の雨の手向川
あふるゝ水をせきやとむべき

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

なつかしき農村の姉妹へ

女子大學玉成寮監　須田清子

∴

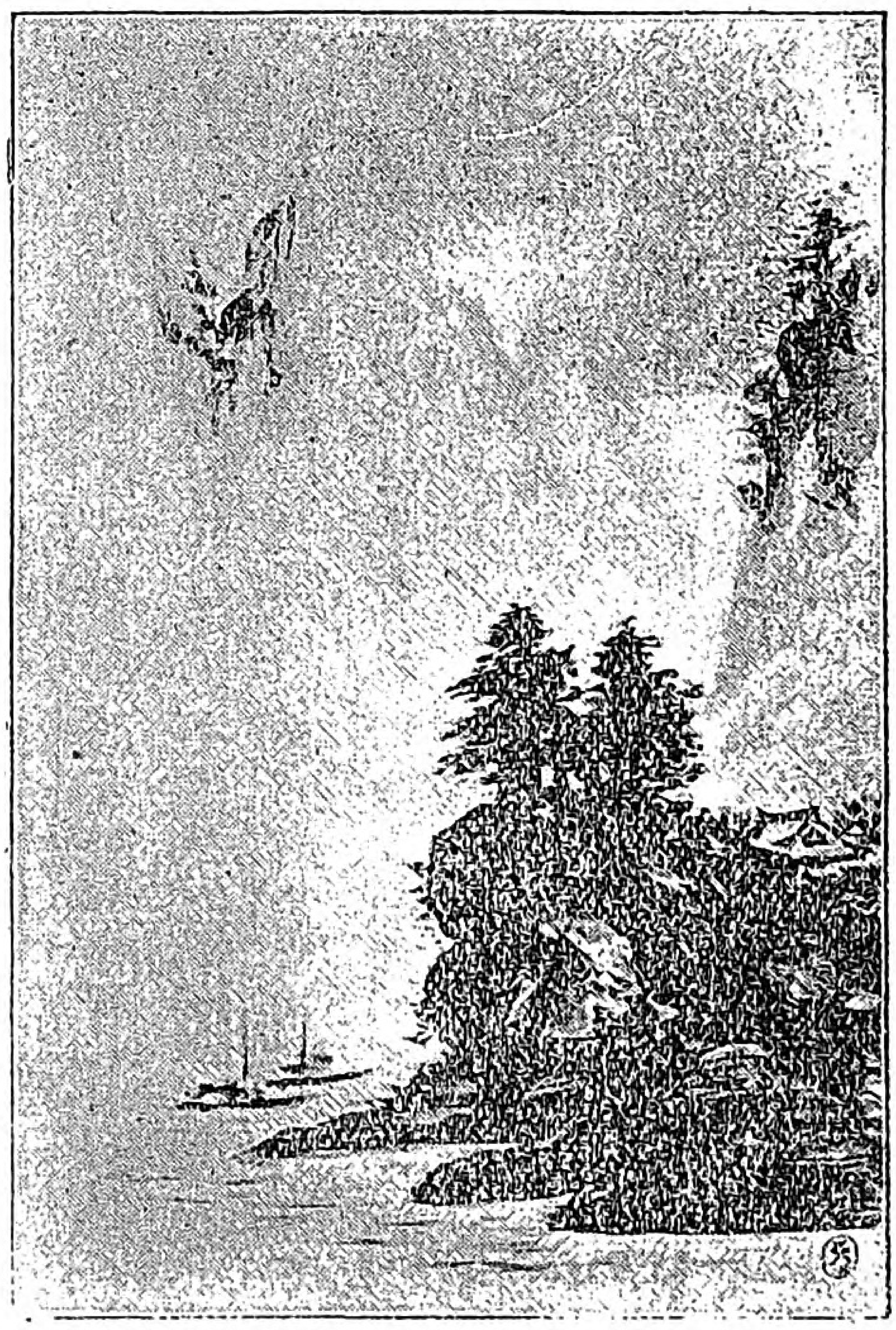
紅白の彩花もいつか新綠の影と化して田畑に紫の霞淡くたち迷ふ森林や、緩やかに流水の歌うたふ小川恰も宇宙の水彩畫の如き自然、そは誰がためのものでせう。……米國の偉人エマルソンと云ふ方が「田圃は無言の福音である」と云はれて居りますが、私は又これ程偉大な、これ程立派な、書籍はないと思ひます、と、同時にかく迄も無盡藏な寳の倉はないと信じます。然も此の福音をきゝ此の書籍をひもとき、又此のつきない寳の倉をひらくべく與へられた其の人々は、そも〳〵誰でありませう。そは卽ち土に親しむ農村の人々であります。

私は最近次の樣な夢をみました「ある夕方數人の友と畑に草取りして居ましたが、いつか日は全く暮れて空に無數の星が輝きそめましたので、草取をやめて歸るべく立ち上りました、丁度其の時に星の世界からでせうか、一つの青光を放つ珠が私の前に落ちました私はかの隕石の一種かと思ひ、急ぎ寄つて見れば、其の珠の面に明瞭に「勞働は祈なり」と記してありました、……と思ふまに眠りよりさめました。私が此の夢に依つて學ばねばならぬ事は澤山あります、然し最大のものは農村の人々の自覺と云ふ事であります。前述の如くに農村僻地の人々に與へられた自然は、實に久遠の昔から、永久の未來に向つて、進化發展しつゝある、神の、又は如來の、仕事場であります、そして私共農村の人々は、神と共に働く者であります、一本の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

苗を植ゑるも、それは誠に貴き仕事であります、まして炎熱やくが如き日に照されて、田の草取りの如き、あゝ實に國家のため、同胞のために、人知れぬ田園に勞働する人々の、其の心、其の祈それは都會の人々に理會を求められませぬ、然も我農村の人々は無限の感謝を有つて居ります。眞の人間の幸福は此にあるではありますまいか、實に此に生きて居る價値があります、此に農村生活の意義もあると信じます。

さて、自然は一切の己れの領土をば、全く人のために捧げて、有用の物を創造するため、其の材料となつて居ります。私共農村を愛する者達は、人に知られんために働くのではありません、唯貴き重き位置を自覺して之を喜び、此に不斷の努力を捧げ、國のため純良な農民であらねばならぬのであります。



次に婦人としてこゝに皆樣と共に考へねばならぬ事があります。それは一般日本婦人は種々なる原因のため、從來改進力を缺いて居て、進歩向上の生活ができませんでした。ことに農村の如き文化に遠ざかり易き地に於ては又一入であります。然も改進の必要を訴ふること切なるは、農村でありますから、私共は此の種の覺悟が非常に大切であります。改進力を缺乏したることこれ天下唯一の死患なり、と、云ふ言葉があります、私共は此の死患に罹つてはなりません

（大正八年四月二十八日）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

榮養と食物の話（二）

內務省衛生局編纂

養素は斯く大切な成分ではあるが、卵の白味や脂や葛の樣に、多くは風味も香氣もなく、迚ても夫れのみを食べることは出來ません。そこで此の無粹な、實用一方の、養素に味を利かせて、嗜好に叶ふ樣にする物が必要であります。之れを嗜好素と云ひます。

嗜好素は、養素と違ひ、榮養の價は僅かな者であります。併し食欲を催し、又消化液の出で來ることを促し、間接に榮養に利益する所が尠くないのであります。

嗜好素を多量に有つて居る物を嗜好物と云ひます。茶類・酒類等の飲料や、鰹・昆布の「ダシ」等は夫であります。肉羹汁の如きも亦、一つの嗜好物で、榮養の働は尠ない物であります。之を大した滋養物と思ふのは間違であります。嗜好物中、芥子・山椒・薑・唐辛子等の類は、多量に用ゐると、刺戟性強き爲、腎臟等の病を惹き起す恐があります。鹽分の如きも亦多量に取り過ぎると、腎臟は夫れを血液中から省いて尿の成分として外に捨てる爲に骨を折らなければならぬから、腎臟病の人等は特に之に注意せねばなりません。

吾等が食物として取つて居る天產物即ち食品なる物は、獨り養素のみならず、嗜好素をも含んで、自から風味や香氣を具へて居ます。動物は夫れで滿足して居ますが、人間は夫れ丈けでは滿足しないで、更に調理し鹽梅して、旨しく食べる樣に工夫を凝らして居ます。之は勿論好いことに相違ありませんが、併し其の爲め餘りに量を過ごして、病氣の原になる場合があり

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ます。殊に酒の如き嗜好物に於てそうであります。大に愼まなければなりません。

又天產物に餘りに手を加へ過ぎる爲に、折角其の中に含まれて居る大切な成分が失はれる場合があります。米麥等では、內層は主に澱粉で、其の他の養分は專ら表層にあります。そこで米を精白げると、此等養分と、及び或る大切な成分が、糠の成分となつて失はれます。鷄・鳩等を、精白米のみで養ふて見ると白米病と云ふ一種の病氣にかゝりますが、之に糠を與へると直ぐ癒るのは、米の或る大切な成分が、糠となつて失はれて居る證據であります。又た長い航海の場合とか、戰の場合等に、餘儀なく、鑵詰にした物のみを食べて居ると壞血病と云ふ一種の病にかゝるが、之れに新鮮な肉や野菜を與へると恢復するのも、矢張り加工と貯藏とによりて新鮮な食品にある大切な成分が失はれる證據であります。

天然の食品を分けて、動物性と植物性との二にします。獸・鳥・魚の肉や、卵・牛乳の如きは、動物性食品であり、穀物・野菜・果實等は植物性食品であります。多少の例外はあるが、一般に動物性食品は水分が少なく、濃厚で蛋白質及び脂肪に富み、含水炭素に缺けて居ます。之に反して植物性食品は、水分が多く、淡泊で、含水炭素に富み、蛋白質・脂肪に乏しいのであります。（是等の關係は卷末の食品分折表を御覽になればよく分ります）夫れですから此の兩者を適宜に併せ取ると、彼れ此れ其の足らざる所を補ひて、榮養上誠に都合がよいのであります。其他動物性食品は、植物性食品に較べて消化が容易く行はれます。之は木纖維と云ふ不消化性成分が、植物性食品中に多くあるからであります。木纖維は不消化である故に、小量なれば腸に適度の刺戟を與へて、其の運動を促し、便秘を防ぐ效能があります。

斯樣に動・植物性食品は、其の成分が偏よつて居るが、乳汁は例外でありまして、蛋白質も、脂肪も、含水炭素も、鹽分も、皆程よい割合で有つて居ます。夫れですから、子供は之れのみを取つてよく發育して行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

くことが出來るので、誠に理想的の食物であります。殊に母乳は其の子に取つては、何物を以てするも、代ふることの出來ない榮養上の美點を具へて居る者ですから、愛兒を健全に育てやうと思ふならば、何はさて措き授乳が第一であります。萬已むを得ない場合には牛乳で育てるのでありますが、母乳に比べて其の成分に相違のあるのは勿論、消毒や、薄め方や、温度の加減や、迚も母乳の樣な完全な譯には參りません。まして乳粉等、牛乳以外の代用品を以てすることは、絶對に避けなければなりません。牛乳で育てた子ですら、母乳で育てた者に比べると、發育も概して遲れますし又た病氣に罹かつた場合に、抵抗力が甚だ弱いのであります。況んや其の他の代用品で十分に育つ譯がありません。

第二節　食物は何れだけ取ればよいか

前に述べた所の、食物は何故大切であるかの理由は又た食物をどれ丈け取ればよいかと云ふ問に答を與へます。即ち大人であれば、勢力を出す爲に日々消費せらるゝ成分を、十分補ふ丈けの分量が必要であり、子供であれば、尚ほ夫れ以上、體の成分を殖やして生長するに必要な量を取らなければなりません。隨て同じ大人でも、職業によつて違ふ者で、劇しく働く人は、靜にして居る人よりも多量の食物を要するのは勿論であり、又た子供は體が小いから、食物の絶對量は大人よりも寡いのでありますが、之を同一體重例へば體重一貫目に割り宛て見ると、却て子供の方が大人よりも割合多量の食物を取る者であります。又季節にも關係する者で、同一の人でも、寒い時には多くの熱を造つて冷えない樣にする爲に、暑い時よりも多量の食物を要求する者であります。

體成分を損失せず、健康に差支なく暮らすことの出來る食物を、保健食料と云ひます。然らば保健食料としては、如何なる養素を、日々何れ丈け取ればよいだらうか。學者の外、恐らくそんな事に氣を寄せて居る者は一人もないでしやう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

處女と貯金

金森通倫

『お父さん勤儉貯蓄は大事なことでありますから、私たちは皆やつて居りますが、どうも折々はつらいと思ふことがあります』
『何にが辛いの』
『ハイ、ふだんはようございますが、お友達と御一所にお花見などにゆくとき、皆樣は立派なおなりでいらつしやるのに、私たちだけ、イツモ此通りの着物で參りますから、ナンダか肩がすぼる樣でなりません』
『アーさうか、其れは少しも氣付かなかつた。ヨシ〳〵夫れでは一つ肩のすぼらぬ工夫をしてあげませう、一寸お前がたの貯金の通帳を持つて來なさい』
から云はれたので此れはなんでも貯金を引出して美服でも作つてくれるではないかと、ニコ〳〵やつて急いで各々の通帳を持つて來た。
『ドレお見せなさい、ナールほど澤山についてゐる幾何あるか一寸勘定してようと、算盤において見ると姉の分が三百二十五圓、妹のが百十五圓、末の子が九十圓になつてゐる。
『此は中々立派な貯金だ、是れだけあれば大丈夫、さあ是から後御前方がお友達と一所にお花見などにゆくときは、イツでも此通帳を肩の處に縫付て行きなさい、是が一番よい肩のすぼらぬ藥、マーヨー考へて見なさい、アノ御友達の着てござる縮緬の羽織や繻珍の帶は幾何するだらう。高が三十圓か四十圓位のもの、其の通帳に付いてゐるお前達の貯金

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

を引出して買つたならアンナ羽織や帶位は、何枚でも何本でも直ぐ出來る、そこであの御友達と帶や羽織の競爭をする氣ならば、一枚や二枚では面倒だ、イッソの事に、其の通帳についてある金を皆引出して作つた積りで、其の儘其れを肩に縫附けてゆくが一番早みち、さうしたら今度は肩が伸るだらうよ』

先づこういつて、夫れから三人の子供を前に呼び出し、ねんごろに敎訓を始めた。

『モーお前方も此位のことは解らねばならぬ、今お前方に粗末な着物を着せてあるのは、お父さんが貧乏で他家の御孃樣たちのように、立派な着物が着せられぬからではない、ナー着ようと思へばお父さんに賴まなくても、銘々の貯金を出しても、アンナ人より何十倍も立派な形が直ぐ出來る。ところで其の出來るのを出來さへないのがお前達のねうちやないか、今は大事な勉强時、勉强中は丁度馬車馬が兩方を閉いで一直線に走る樣にお前達も着物やかざりに心を引かれず一心不亂に婦藝を學びさへすれば夫れでよい、さうして智識を開け、心も磨け』

『抑々眞の婦人の飾りといふは、櫛簪や着物ではない、淸い心と深い智慧、此れに越した飾りはない身體中に赤い物や靑物を取付けて、夫れで女の飾りが出來たと思ふは世の中で賤業婦と見下げられる藝妓なんぞのすることである。夫れに立派な家のお孃樣たちまでが、今ではあんな者の眞似をされる、形の上であんな者の眞似をされるから、とう〳〵心まで腐つて仕舞ふ。實に情ない話、お前方はマーあんな人の仲間入りをしてゐないから有りがたく思はねばならぬ、まだ知るまいが、あの立派なお孃さんたちは、御飾りだけは立派でも、只の一文でも貯金なんぞはありはしない。其の親たちは又どうかといふと、始終借金ばかりで、高利貸には責められどほしといふことだ、親等の難儀されるのも構はず、自分たちだけ立派な形をすれば夫でよいと思つて居られる、あのお孃樣たちの氣が知れない、さういふ人の成れの果こそ實に思ひやられる。然しお前たちにも一生涯粗末な着物ばかり着て居れといふのではないよ、着るべき時が來たならば、美服も着るがよい、立派な飾りもつけるがよい、だが夫れはモウ立派に一人前の婦人に成つてからの話、今はまだ其の時でない。(元內務省囑託金森通倫氏『貯金のすゝめ』より)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

處女へのお返事

○處女より記者へ

拜啓野に山に霞たなびき、のどかの時候に候處、先生樣には御健全にてお目出度奉存候。さて私は○○村處女會員にて御座候、私こと不束ものながら、身を修め天晴なる處女となりて、御恩深き校長樣に酬ひたく候處よく考へて、外國に參りたく存じ候、校長にお願ひ致候處、二十歳以下にては御許可せざるよし、其ではせめて東京に參り、外人の家につとめたく、私は外國のお金を少しにてもお國にあつめたく考へ居候　外國人の家にて日本のように出來居り候家有之候や、御知らせ下されたく、私の筆跡はこのまゝに候まゝ、此にて御試めし下されたく、何卒至急御返事被下度待居候

四月五日　（姓　名）

記者はこういふ手紙をいたゞきましたからすぐ御返事を出しました。

○記者より處女へ

御手紙拜見致しました。よくわかりました。然しもつと／＼よくお考へ

獨逸の處女會

獨逸は戰爭に負け國の內が亂れてゐますが青年會さいひ處女會さいひ非常に發達し、永い間の戰爭にもちこたへて居つたのは此等の爲であつたささへ言はれてゐます。日本の處女會の參考に大體のとをお紹介しませう。

處女會の目的

獨逸處女會の目的は、生長期に於ける處女の身體さ精神さを健全にし、現代の日常生活に馴れさせ、勞働に對する趣味を增進し、競爭の激しい現代の世渡りに適當な婦人を養成するこさを目的さしてゐる。

組織さ入團

獨逸處女會は十二歲より十八歲までの處女を以て組織し、處女八名を一組とし、組長を置いて其の下に助手もある。此の組が三組又は四組一所になつて一隊さなり、二十一歲以上の婦人が指導者さなつて指揮する。

入會する時には願書を出す、願書には

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

なさらぬといけません。私にはあなたがどういふ譯で外國へお出でになりたいか、そのへんのことがよくわかりません。それから御長女ですか、二女三女ですか、お家の御仕事はなんですか、御兩親のお年はいくつですか、戸主はどなたですか、御兄妹は幾人ありますかあなたは高等小學を卒業しましたか、それとも尋常だけですか、以上のことおしらせ下さい。

あなたのお心もちは略々わかりましたが、まだお家のことがわかりませんので困ります。

それからあなたは、どうしても田舍にゐらつしやることが出來ないのですか、出來ないとすれば其の理由をかくさずお知らせ下さい。更めてお返事申しませう。

然し〇〇子さん、あなたはまだ外國の御事情をご存知ないところがあります。たしかな外國人が傭つてくれると申しましても、娘一人で外國へ參りますことは容易のことでありませぬ。第一外國語が十分に出來ねばなりませぬ。外國の事情をよく知ることは勿論です。

東京あたりの外人屋敷と申しましても、なか／＼さう造作なくあるものではありませぬ。よしあつたにしても、果して其が仕合せでせうか

強いて御のぞみなら、まづ東京へ御奉公なさい、よい家庭に行儀を見

原籍住所年齡及履歷を明記する外父兄の職業をも記入することになつてゐる。

處女會の事業

補習教育、實務教育、農村及都市教育を首めとして、經濟上の智識の涵養、旅行及遠足、財産管理、保險、水火災救護、小兒養護、共同生活の訓練、慈善事業、工場研究、其他を主要なるものとす。

尙處女會は適當の場所に共同試作場を設け、常に共同試作をして其の收穫品をば市場に賣却し基本財産とする

入團の條件

處女會員は左の規定に從はればならぬ。

一、會長には無條件にて服從すること。

一、凡ての練習及遊戲に參加すること

一、事故の爲に缺席したる時は屆出をなすこと

一、毎週二十錢乃至四十錢を會費として納付すること遊戲を練習する間は酒を飲まざること

指導する婦人の資格は自己の健康なるべきこ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

習ひながら勉強なさい。然しながら〳〵理想に叶つた家はありますまい。華族とか、金持とかの家庭が必らずしも理想であるとは申されませぬ。案外みだれてゐるのであります。却つてお爲になりますまい。商家や官吏へつとめても滿足するやうな手當と待遇を受けることは、まづむづかしいと思へば間違ありませぬ。東京の御容子を知りたい爲に御出でになるならば、其は二三年の御奉公もよろしいでせう、御出世の爲に御出でになるのには、よくお考へにならぬといけませぬ、誘惑に打克つことですら、今の世の中では容易でないとも申します。年若い乙女の都入りはよく〳〵お考へ下さい。出來るならば、田舍にお出でになつて下さい、どうしても其が出來ないならば、其の理由をくわしくお洩らし下さい。

然しよくお手紙下さいました。默つてうか〳〵とお出でになると、とんでもない目にあひます。都會の人の中には、正直な地方の青年や娘をだまして、懷を肥やしたり、わるさをしたりするものが多いのです、深切さうなことをいふ人の中にも油斷のならぬ人が多いのです。決して〳〵氣をゆるしてはいけませぬ。

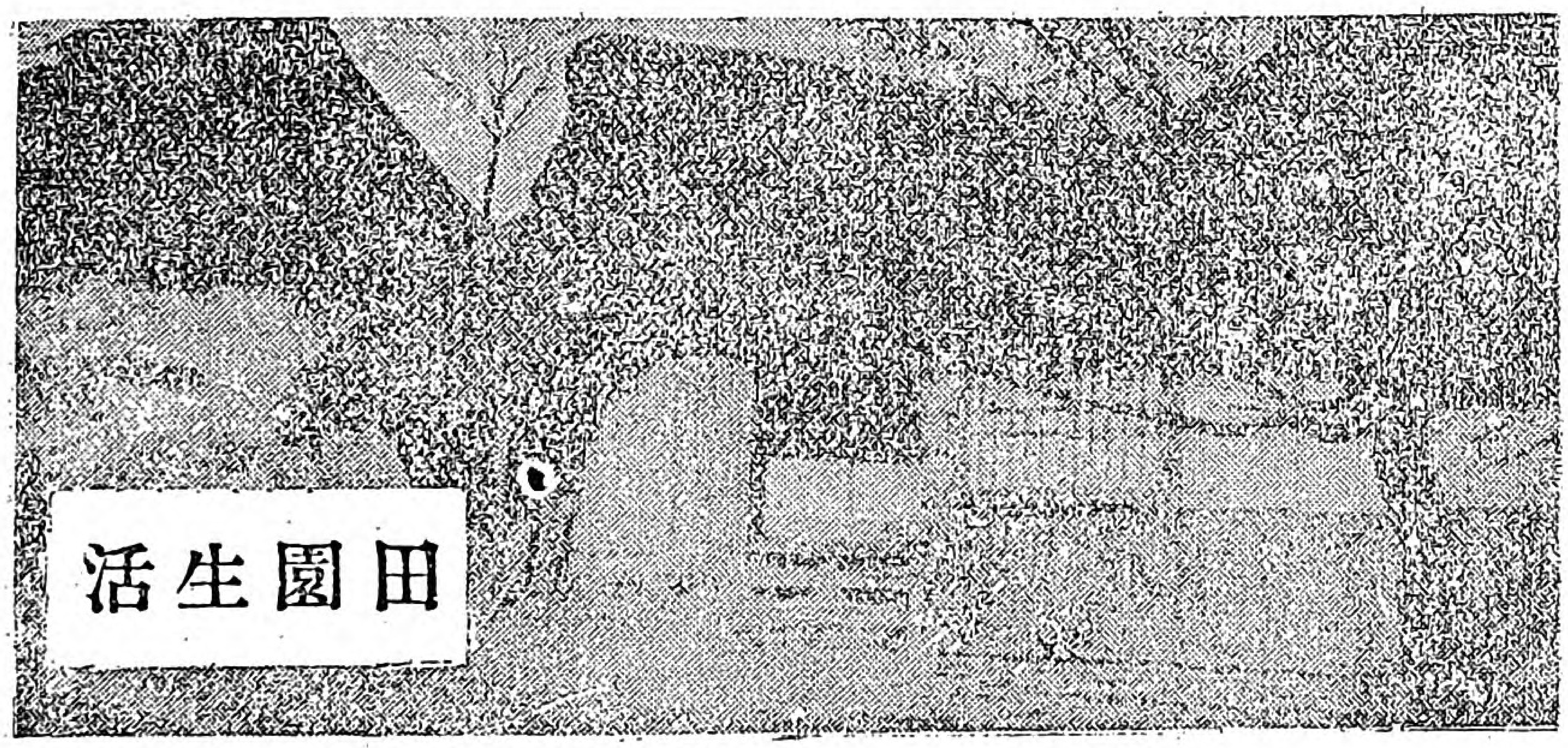
と飲酒をすべからざること、少女の勤勞に熟知する明を備ふること、沈着にして愛情深かるべきこと、少女の過失を適度に叱責すべからざること等である。

尙ほ獨逸處女會は中央部を伯林に置いて地方處女會と連絡を圖り統一的活動をなしつゝあり。

口狸のつゝみ(童話)

春の夜のしづかなるに、月の光さやけく、話の友もなければ、ひとり床柱により「去るも此人は」と中音にうたひかゝれば、しばしするうち障子越にポン〳〵とさしもえならぬ鼓の音、不思議には思ひながら、たへずうたへば、ます〳〵鼓も圖に乘つて打つ、だん〳〵面白さに、田村を高聲にうたひ出し、せめにかゝり「雨やあられとふりかゝつて、ヤツハ、スポンポン〳〵互に張合ふて余念なかりしが、いつの間にや、さんと鼓は打やんだから、不思議に思ひ、そつと障子を明けてみたれば、「狸が腹を打破り、ヒイ〳〵」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



孝女白菊物語

白菊が病める母よりわが生ひ立ちを聞きまして、泣きくづれて居りますと母はつゝいて

『それで、ゆく末はそなたを昭英の妻として、此の本田家をいや榮えさせる心なりしに、昭英は家を出でゝ今は行衛もさだかならず、そなたの悲しさ思ひやるだに哀れ、わが亡き後父上にめぐり合ふときあらば、そなたよりようおわびして、昭英と夫婦となりてわが家を興してたべ。』

生みの親は何處の人なるか更に解らぬ白菊を、長の年月眞のわが子の如く愛撫してくれました養母の恩をしみ〴〵と感じて、白菊は力のあらん限り看護しましたが、定命はいたしがたなく、とう〳〵無常の風にさそはれて此世を去つてしまひました。

父は戰場に出でゝ生死の程すらわからず、杜ともたのみし母に先立たれ、戀しき兄は父の怒りにふれて家にあらず、白菊は獨り物淋しげに阿蘇山の麓の茅舍にたよりない月日を送つて居りました。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

さるほどに其の後賊軍は熊本を退き、薩摩、大隅、日向の三國に潜むで官軍と烈しく戰ひましたが、果ては大西郷以下城下の松の下露と消えて、世は漸く太平の春にかへり、白菊も生きて再び戀しい父昭利と合ふたのしい日にめぐり合ひ、しばらくは父子相擁して泣くのみで言葉もありませんでしたが、やがて白菊から母の歿かりしことをきゝました昭利は、其の夜ひと夜をしみ〴〵と語りあかしました。

それから昭利は世の望をたち、白菊をたよりに草花を培ひ風情をめで外に出でゝは山鳥など狩りて浮世のうさを忘れて居りましたが、さる日父は狩りに出たるまゝ待てど暮せど影も姿もみせませぬ。

雨の音、風の聲、それすら父の足音かと思ひなされ、夢うつゝに父の俤を胸に描き今日か明日かと待ちあかせど、父は歸つて來ませんので白菊はどう〳〵心をさだめ父のありかをたづねんと家を後にしゆくえさだめぬさすらひの身となりました。

さらでだに物淋しき山里の秋の夕ぐれを、しを〳〵と山深く分けゆく白菊の眼に、ふと映りましたのは、あなたの森陰の燈火で厶います。たづねあてますと、さゝやかな山寺で、門をたゝいて案内を乞ひますと、やゝあつて手燭をさげた山僧が、戸を開けながら白菊の姿をみまして、無言で目をみはつて居ります。

『妾は怪しのものではござりませぬ。父の行衛がわかりませぬからたづねて居るもので厶います』

と白菊のしめやかに物語るに、やゝ心解けたる山僧は

『さらば内に入りたまへ、委細はゆる〳〵承らう』

と僧房に招ぜられました。白菊は仔細に身の上を涙ながらに物語りますと、山僧は

『天晴殊勝なるお志なれど今夜は夜ふけてゐる故に此寺に宿りして明くる朝出立なされ』

と深切のすゝめに、白菊は山寺に一夜を明かしました。すると夜ふけに父の昭利が枕邊に參りまして

『白菊！白菊！實に危い目にあつた、谷底に落ちて上ることが出來ないのぢや。』

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

おどろいて立上らうとしますと、其は一睡の夢で本堂で木魚の音が冴えて聞えます。

夜の明けるを待つて白菊は更に山又山を奥深く分け入りましたが、父ぞと思ふ人に出會はず、途方にくれてゐますと、折あしく其處ら界隈を荒らし廻つてゐた山賊の群に捉へられ、窟の中のような所に建てられた家へつれてゆかれました。山賊は急に酒もりを始めまして、

『さあそなたは今日から儂が妻になるのぢやさもなければ氣の毒だが……』

と恐ろしい刀物を手に恐ろしい手つきしてをどします。

白菊はたゞふるへをのゝいてゐますと、

□足るを知れ

或日のこと、驢馬と尾無猿と、互に身の上の難儀を語り合つてゐました、驢馬は「角がなくてまつたく困る」と不平を云ひますし、無尾猿は「僕は尾がなくて不便でしやうがない」と愚痴たらたらでした。すると傍に聴いてゐた鼴鼠が「君達は、そんな愚痴を零さずと、皆夫々自分の體に具つて居る丈のものを有難いと思はねばならないじやありませんか、御覧なさい、斯う云ふ私などは、眞箇の盲目で、君達から見れば、どのくらいみじめだか知れません」と申しました。

『さあ一つ妻琴を彈いてくれよ』

∴

白菊が彈く琴の音に、耳を欹てつゝ、岩隠に潜んで居つた一人の男は矢庭に大刀ふりかざして山賊に切りつけましたので、驚いた賊はあはてふためいて雲を霞と遁げ散りました。

白菊が見上げまするど見覺えのある氣品の高い山僧でした。

『をゝ白菊われこそは汝の兄なるぞ、昨夜そなたの物語を聞き、名乘り合はんと思ひしも、今は一個の住職、其とは打ち明かさゞりしが、今朝そなた一人の旅立ちせしより、若しも難義でもあらばと後つけ來りしよ、危うかりしそなたの命なりけり。いでや此上は共々

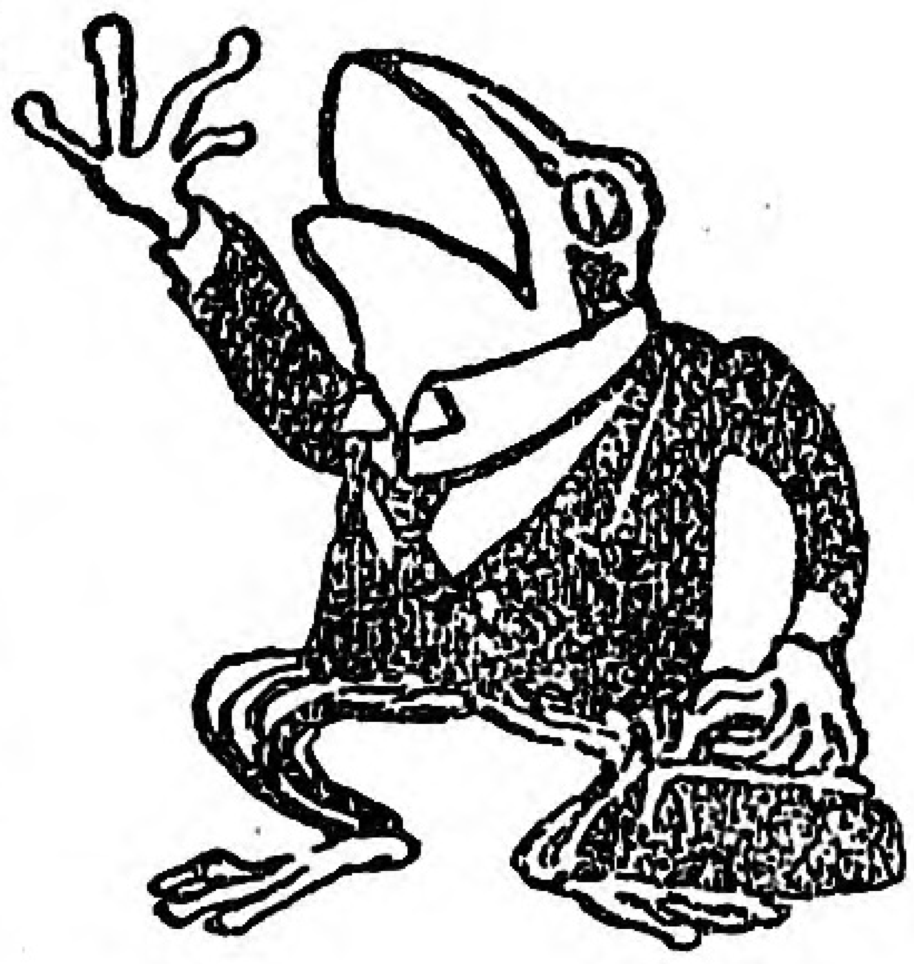
Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

に父をたづね合せて我が身の不幸をお詫びいたさう』
と兄妹は心勇んで外に出ますと、先きの山賊が群を成し、意趣返しに參りましたので、
『そなたが居つては危ふし、われ一人にて防ぎ戰ふ敵にしばらく里にのがるべし』
折角兄に合ふた嬉しさは束の間、白菊は兄の安否を氣づかひつゝ落ちのびまして、しのゝめ頃となりますと、朝露のしげきをいとはず草刈る翁が居りまして『此の淋しい山路を娘一人の旅路仔細がござらう』と白菊をわが家に誘ひ、手厚くもてなしてくれました

白菊は此の老翁の世話になりまして父のありかをさがして居ります中に、此村の名主に思はれましたが、白菊は『妾には心に定めし良人がありますほどに』と辭退しましたが、たつてと望まれますので、思ひ餘つて翁の家をのがれ出で再びさすらひの身となりました。
『をゝそなたは白菊！』
『をゝお兄さま！』
圖らず兄妹は、とある山路に出合ひまして、しばしは相擁して泪にくれました。あと心にのこるは父上ばかり、兄妹は其から尙も根氣よく父をさがしあるきましたが、どうしても出會ふことが出來ませんので、さらば一度わが故里に歸らうと阿蘇山麓の家に戻りますと、人のゐます氣合ひ、内に入つてみますと其が久しい

□先づ自らを治せ

蛙が沼から這出しまして「エー諸君エー私は世界第一の大醫であります、エー私が一度診察すれば、どんな難病でも、きつと癒してお目にかけます、まあ一度お試しあつて廣告の嘘でないことを知り給へ」と吹鳴りますと獸共は皆豪い學者だと濫らに感心してゝまいました、すると狐がそれを聞いて「ヨウ、蛙先生、さう云ふ御自分の跛や癩の皺は如何したものだ寢ぼけ目で眼醫者は出來ねへつて云ふじやねへか、大きな事を云はねへ方がよからうぜ」と遣込めました。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

間たづねて居つた父君でありました。

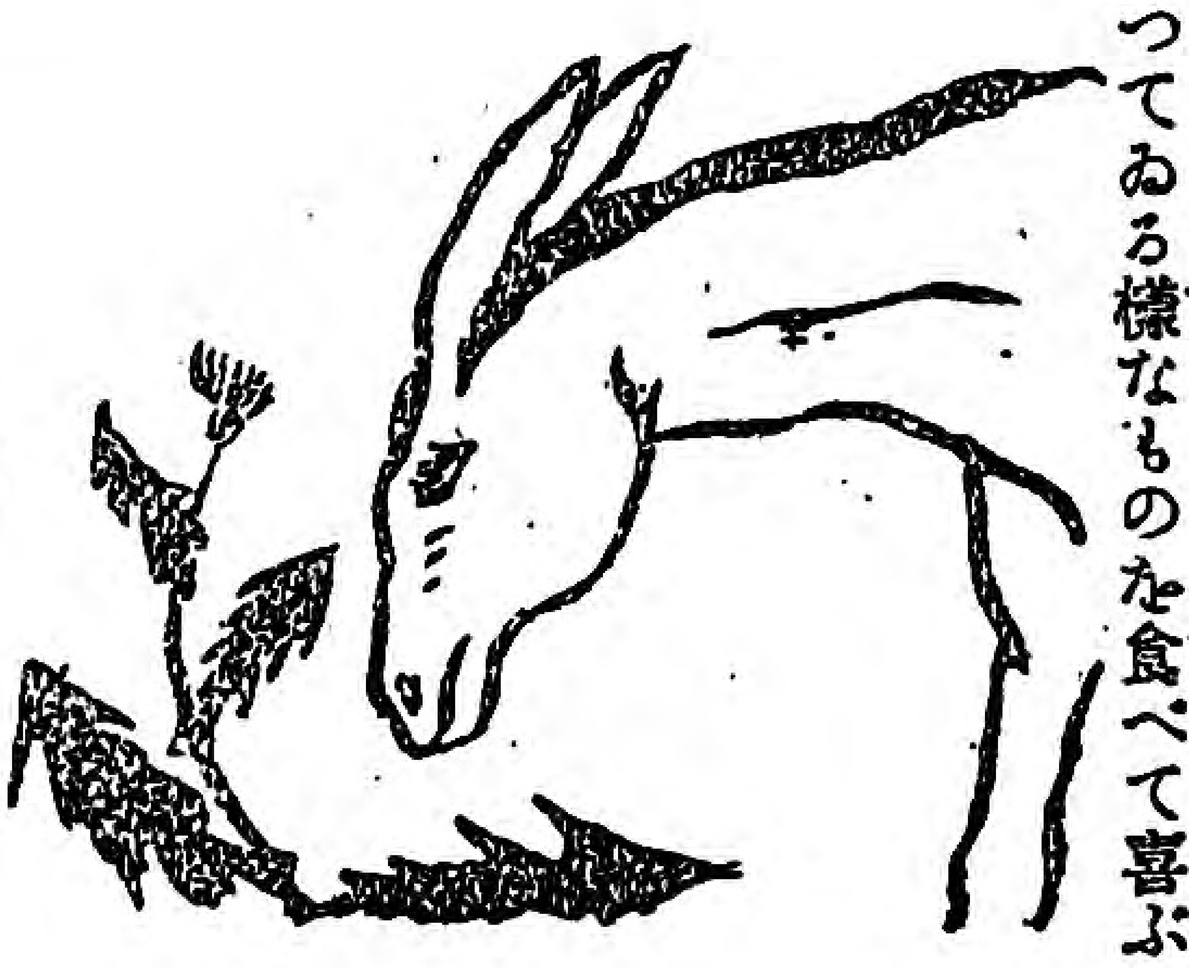
∴

父子三人めぐり合つて其の夜一夜はまんぢりともせず語り明かしました。白菊は兄をたづつて山房に宿をかりしこと、賊の危難を助けられしこと、其がたづぬる兄上なりしことなど物語れば父は涙ながらに。

『皆々に苦勞をかけてすまなかつた、實は獵に出かけて谷底に落ち二三日間はどうすることも出來なかつた。その中谷の上にゐた猿が私を見て蔓に這い上れと手まねで敎へてくれたので、やう〱上りつくことが出來たのだ、然し家に歸つてみたが肝心のお前が居らぬので儂の心は滅入るやうだつた』

口十人十色

一頭の驢馬が、麥刈に行つてゐる人々へ、晝飯を運んで行きました、すると其の途中で大層奇麗な、薊を見つけましたので喜んでムシヤ〱食べはじめましたそして心のうちで「己れの脊中にのつかつてゐる樣なものを食べて喜ぶものもあるだらうが、己にとつては此の刺のある薊が何よりの御馳走なんだ」とつく〲思ひました、人には十人十色各々何事も好き不好があります、自分が好きだからと云つてなんでも人に強いることは戒めねばなりません。



昭英は更めて父に不孝を詫び、許しをうけまして白菊と此に目出度く夫妻の盃を交はし、一家目出度く平和の春を迎へることになりました。

白菊の歌

阿蘇の山里秋ふけて
　眺めさびしきゆふまぐれ
いづこの寺の鐘ならん
　諸行無常とつげわたる
折しもひとり門に出て
　父を待つなる少女あり
年は十四の春あさく
　色香ふくめるそのさまは
梅かさくらかわかねども
　末たのもしく見えにけり

（落合直文作）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

教育勅語いろは歌

武藏野學院長　菊地俊諦

いろまさる、御垣の松の、ときはに
さかえゆくべし、すめらみくには。

ろく軍を、すべて宮居を、いでたゝす
神の御姿、尊くもあるかな。

はつ國を、しろしめせてふ、大みこと
思ひみるだに、かしこかりけり。

にちりんは、光りまばゆく、照すなり
かぎりはあらじ、大八洲國

ほど〳〵に、身にかなひたる、なりはひも
神の惠の、ありてなりけり。

へだたりて、まつろはざりし、民草も
みはたの風に、なびきふしけむ。

ときはかる、うつはの針の、一筋に
思ひてものは、なすべかりけり。

ちよ八千代、かはらぬ松の、操こそ
わが國民の、心なりけれ。

りに馳せて、親の惠を、かりそめの
ちぎりとのみぞ、思はざらなむ。

ぬけいでて、人よりさきに、つくせかし
すめら御祖の、あとをあふぎて。

るりの色、うつくしけれど、國民の
あかき心に、およばざりけり。

をさまれる、すめらみくには、千早振
神ぞ基を、ひらきそめにし

わが君の、御稜威あまねく、世々をへし
國の光は、くまなかりけり。

かみ代より、つたへきにける、しきしまや
やまとの道は、奥ふかきかな。

よるひるの、わかちもあらで、はぐゝみし
親のめぐみに報ひざらめや。

たらちねの、惠のつゆに、生ひたちし
庭のなでしこ、風にあらすな。

れいぎをば、男をみなも、心せよ
狎るゝは不和の、もとゐなりけり。

そむかじな、つくす信の、一筋に
かたく結べる、友垣の道。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

つゝしみて、一あし事に、進みなば
ゆかれぬ道は、あらじとぞ思ふ。

ねもごろに、身の程々を、わきまへて
世をふる人の、たのもしきかな

なにものか、天つ光に、てらされで
のこりてあらむ、この大御代に

らう幼の、たよりなき身と、云なかれ
なさけを知らぬ、人なかりけり

むつまじく、學びの窓に、いそしみて
人の心たる、道を知らなむ。

うごきなき、國のもとゐは、千萬の
民のまことに、きづきあげなむ。

ゐくんある、つとめの本は、天地を
照しわくべき、智慧にぞ有ける。

のりを知る、深き悟りはありとても
力なくては、かひなからまし。

おい松の、たかき操は、ふりつもる
雪の下より、あらはれにけり。

くにの爲、すぐなる道を、たどりつゝ
生てかひある、身とはならなむ。

やみ夜には、ほそき光も、たのまるゝ
人のためには、身をばをしまじ。

まことある、人の心ぞ、やがて世の
くもりをはらす、鏡みなりける

けふりたち、竈どにぎはふ大御代ぞ
おのがむき〳〵わざを勸めよ。

ふみてゆく、道のためにと、後の世に
栞をこそは、のこすべきなれ。

こころして、ゆめなたがひそ大御法
君のたまひし、國の寶ぞ。

えてをのみ、いひて御法に、違ひなば
大御心に、かなはざるべし。

てきあれば、いざやみたてと、壯夫も
田守る翁も、きそひたつなり。

あけくれに、君をしおもふ、眞心は
いくさの時ぞ、あらはれにける。

さかえゆく、やまとの國は、天地の
限りなきごと、限りあらじな。

きみが代に、下したまひし、御寶ぞ
心ひとつに、まもりがためよ。

ゆめのまも、臣の道をし、忘れずに
國の守と、いやつとめなむ。

めでたくも、代々に傳はる、神の道
いよよあらはに、なさむとぞおもふ

みをしへは、いともかしこし、天つ神
ひらき給ひし、道とおもへば。

しづのをも、誠の道に、すすむなり
みおやの敎へ、かたくまもりて。

ゑみごゑは、今も昔も、かはらじな
大みめがみの、つゆのしげきに

ひの本も、日のいる國も、この道を
ふみなば民は、やすけかるべし

もゆるごと、あつき心を、いだきつゝ
ひねもすおのが誠つくさむ。

せい意をば、恐れかしこみ、よろづ民
ひとつ心に、道をまもれよ。

すすみゆく御代に生れしかひもなく
後れはてなば、くやしかるべし。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

日用熟字展覧會

更迭(役人などのかはること)　信頼(其の人を信ずること)　咀嚼(かみわけること)　屈指(ゆびをり)　要求(もとめること)　待遇(もてなし)

軋轢(仲たがひすること)　協賛(さんせいすること)　持續(もちこたへること)　畢竟(つまり)　穏健(おだやか)　輯睦(仲よくむつみ合ふ)　盡瘁(つくすこと)

理想(りつぱのかんがへ)　普及(あまねくしらせる)　急速(はやく)　振興(ふるひをこす)　流行(はやり)　服裝(なり)

壓迫(をさへつける)　虚禮(むだのれいぎ)　喫煙(たばこのむこと)　能率(はたらき)　養成(やしなふ)　禁酒(酒をのまぬこと)　概要(あらまし)

斷行(思ひきつてやる)　目擊(じつさいにみる)　閉鎖(とぢる)　調査(しらべる)　效果(きゝめ)　强壯(つよくさかん)

薄弱(よわいこと)　傳道(教へを説いてまわる)　實績(しごとのあと)　當然(あたりまへ)　矯正(わるいことをなほす)　研究(しらべる)

組織(組み立て)　徹底(十分にわかること)　發揮(ふるひしめす)　勸誘(すゝめる)　優秀(すぐれること)　誤解(あやまり傳へられる)　基礎(もとゐ)

盛衰(さかんになることとおとろへること)　率先(まつさきに)　發展(さかんになること)　努力(一生けんめい骨折ること)　販賣(賣ること)　買收(かふこと)

貯藏(たくはへる)　歩調(あゆみ)　實驗(ためす)　濫費(むだにつかふ)　誠實(まこと)　公平(へんぱのないこと)

形勢(ようす)　誕生(うまれる)　繁華(にぎやか)　向上(よい方にすゝむ)　救濟(救ふこと)　陋習(悪いならはし)　協心(心を合せる)

完成(しあげる)　輿論(大勢の人のいけん)　才能(はたらき)　猶豫(まつこと)　公衆(大勢の人)　徴候(きざし)

交際(友との交り)　經歷(人のなし來つたこと)　裨益(ためになる)　處世(世渡り)　豐富(たつぷり)　趣味(清きたのしみ)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

婦人講談

夜襲

大久保四州

（一）

「僞りあろふ、此義經が首受取りの御使あろふ」

「モ、勿體至極、天神菩薩、珠數持たぬ法も御座れ、昌俊何とて、大それた左様の御使者――」

「言ふな、然らば鎌倉殿よりの御文もあろふ」

「サアその儀は――」

「珍らしい都への御使者、御文の御便もないと申すか」

「其儀は委細御詞にて仰せ御座つた、當時都に別の仔細なきは、判官殿渡らせらるゝか爲と思へ、よく〳〵禁裡御守護賴み呉れいと、御懇の仰せに在した」

「それ許りの御使者に立つたか」

「それに、昌俊、聊か宿願の筋あつて、これより熊野權現に詣でる存意に在す」

「さても口堅しい申條喃、鎌倉の大名小名押し寄すとあらば、義經宇治瀨多の橋引いて、一の谷屋島に見せた弓勢見せる御懸念から、頭丸めた和僧を忍ばせ、不意を逆寄せて、寢首掻かう計畫より見ゆるわ」

「ナ、なんといたして左様の御企み――」

「言ふな、知らずば其理由聞かして取らせる、屋島攻めの逆櫓の一條より、景時輩が、舌に針持つ讒言

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

から、鎌倉への凱旋すら御許しなく、骨を砕いて父祖の仇、且つは朝敵平家を討ち滅ぼした此判官を、日蔭者に追拂はせられた鎌倉殿御心底、和僧の頭のやうに、丸うは納めさせられまい」

「よし鎌倉殿如何やうの御意あらせられうとも、昌俊に限りて、殿に不忠の志しは露程も持ち候はず、性來の惡性に御疑ひ蒙むるは是非なけれど、二心なき證に、八百萬神祇佛陀の盟を立て丶、起請文認めて進せ申さう、此にてお疑ひ晴らさせ給へ」

鞍馬の奥、奥州の果てに人となり、兄頼朝が旗揚げに馳せ加はつて、粟津が原に木曾義仲を討ち取つて以來、一の谷、屋島、壇の浦と、續く戰に平家を滅ぼして、源家覇業の大半を手一つに引受けた義經も、讒者の舌頭には敵し兼ねて、あはれ功成り業遂げた曉には、兄頼朝から不審を蒙むつて、恩賞の沙汰は固より、鎌倉の對面さへ許されず、怏々として都住居の其隙を、更らに土佐坊昌俊の手に依つて討て取らうの情けない境遇に迄追詰められて居た。

（二）

「殿、一大事出來に御座りまする」

文治元年も早や秋闌けて、今日は十月朔日の夜、堀川の第に都の夜は、靜かに更けて行く。

「誰ぢや」

「靜に御座りまする」

「オ丶、和御前か、一大事とは」

「あの起請法師が上に御座りまする」

「ウム、土佐坊が何とした、晝の程あれ迄にたしなめ置いた、奴何を仕出來し得やうぞ、見い、書きも

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

書いたぞ起請文七枚認めて、燒きて呑み、丸めて呑み、寺々、神社、ある程の神佛に納めてと申し歸つたわ」

「惡性法師の起請で、貴い殿の御身が庇はれましやうか」

「何と、余が身の上と申すか」

「端たない女の差出口とお叱りも御座りませう、あの法師、口に殊勝のお盟ひ立てながら、眼は一寸の油斷も御座りませぬ、歸り際にもお館の隅々隈と睨み歸つた樣子、よも唯事には在さじと、豫ねて知合のかふろ(入道淸盛が市中目附として設けありたる少年探偵)二人に申聞かせて、法師が館探らせましたに、夜に入つても沙汰御座りませぬ」

「オヽ、かふろは歸つて見へぬと申するか」

「餘りの不審に、笹代を見せに遣はしましはれば、可愛や、かまろは二人共、土佐坊が門に懲らしう斬りさいなされてゞ御座りました」

「ヤ、かまろが殺められたとな」

「そればつかりか、門前には馬に鞍置き、者共は甲冑に身を固め、矢を負ひ、弓を引締めて、今にも打つて出でやう準備最中とに御座りまする」

「笑止や、日本六十餘州を相手に戰する義經に、土佐坊如きが弓引かうとか、よいわ、秋の夜長のつれ〴〵に、一當てあてゝ命知らずに泡吹かせ呉れう」

「いえ〳〵お館には、當直も數が足りませぬ、早う武藏坊殿、鷲尾殿、佐藤兄弟それ〴〵に御下知傳えでは叶ひませぬ」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

「アッハッハ、、、、鞍馬以來の骨にひよろ〳〵法師の矢の根は立たぬ、騷ぐまいぞ〳〵」

大膽不敵の義經は、靜御前が言葉も聞かばこそ、笹りんどうの紋を織り込めた、白綾の寢衣に、唐織綿の袴寛ろげて、曲錄に身を凭せた儘、身動きだもしやうとしない。

「役ない心配は身體の毒ぞ、要らぬ話に睡氣の催いた、一献干して熟睡とろうに、早や酒持てい」

靜御前の起たとうした時、門前俄かに人馬の氣配して、罵り叫ぶ聲は唯事ならず奥に達いた。

「スワ、早や敵は寄せまする、一刻も御油斷はなりませぬ」

「ウム、扨ては身の程知らぬ弱法師奴、執念くも押し寄せしな早や鞍置かせ、一鞭當てヽ呉りやうず」

義經は、矢庭に太刀取つて躍り起つた、心利いた靜は、些とも動せず、駈け寄りざまに、着背長とつて、義經に投げかけ、高紐手早やに、結び締めた。

尾花に渡る風腥く夜を罩めて、月なき夜の都大路を、流星怪しげに尾を曳いて、雁鳴く天に長く青く光つて消えた。

(三)

總門には、早や鎧武者四五十騎、ヒタ〳〵と押し寄せて、一同にドッと鬨を作つた。

「判官とても鬼神でない、不意を討たれて、狼狽へ騷ぐ所を、斬入つて首を揚げい、案内は晝の中見定め置いた」

してやつたりと下知する土佐坊の眼前に、總門十字に押開かせて、目指す判官義經が、夜目にも著るき銀作りの太刀佩いて、鎧踏張り立ち上り、大音聲に叫ぶが見えた。

「笑止やな昌俊、夜討、朝駈け、日本國中を選り寄せうとて、義經が頭易う獲られうと思ふか」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

呼ばり〳〵睨めつけた。

廣い第の中には、靜がさそへの機轉に、室々の燈、煌々と照り映えて、庭に篝の炎さへ、眞晝のやうに燃えて居る。

「舘からの急使で、一大事出來とな、殿の御安否氣遣はしや」

あそこの宿處、こゝの屋形、武藏坊辨慶を先頭に、伊勢の三郎、江田の源三、佐藤兄弟、熊井太郎、龜井の六郎、鷲尾の三郎、其他當千の家の子郎黨、蹄も空に汗馬に鞭呉れて、揉みに揉み立て驅けつけた、昌俊如何に勇ありとも、此の幾戰場往來の剛勇勢に圍まれては、早や袋に包まれた小鼠の如何とも詮術はなくなつた、手數の多くは、其場を去らず討ち失されて、身一つを鞍馬の奥に遁げ延びたが、翌けの日は、義經緣故の僧兵に搦め捕れて堀川の第に引出された。

* * * * * * * *

「武藏坊が首七つ、龜井が首五つ、三郎が生捕四人、義經が家の子は誰れも強いわ、なれど當夜の働き和御前が隨一にあつた」

義經は昌俊を庭前に引据えさせ乍ら、靜の手を執つて、熱い感謝の言葉を述べた。

（をはり）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

明治天皇御製

燕とぶかげのみ見えて田植時
家に人なき小山田の里

若葉をかすめ。身を翻へし群を成して燕が飛び交ふ様子は、いかにも快いものであります。

ゆき〳〵てひらりとかへす燕かな
人々に燕群れゐる小村かな

燕は害蟲を食ひますので、農家にとりて恩人でありす、まだから政府でも保護鳥として保護してゐす。燕は物覺えのよい鳥で、毎年巣をつくる農家をよく記憶してゐます。

語らはん友にもあらぬ燕すら
遠く來たるはうれしかりけり
人だにも忘れはてたるわが宿に
かへる燕のあはれなるかな

燕の子雛を育てるところをみてゐますと實に深切で

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

慈愛がこもつて居ります。

燕について物語りがあります。昔ある身分よき家に年頃の娘が居りまして、兩親のすゝめによりて聟をとりましたが、ふとした病氣が原となりて亡き數に入りました、娘の悲しみはよそのみる目もいぢらしかつたと申します。然しまだ年も若いこと故、兩親は二度目の夫を迎へるようにと口をすくしてすゝめましたが

『おなさけのほど身に泌て嬉しう存じますが、緣がなければこそ彼の方と永のお別れを致したのでございます、どうか此上のお情けには、妾に生涯亡き夫の菩提を弔はせていたゞきたう存じます。』

といつてどうしてもきゝません。

そなたの申す所一條は尤なれども其では明日をも知らぬ儂等二人をどうしてくれる、ゆくすゑ短き二人に、早く初孫の顏を見するのが孝子といふのぢや。

時は丁度夏のなじめで、梁に燕が巣をかまへて居りました、娘は重ねて。

『さらば父上樣只今此の軒に巣ごもりしてゐます雄の燕を亡きものにして、雌鳥に物覺をして放ち、若し此の雌鳥が來年雄燕を連れ立つて此處に歸りましたならば、其の時には妾も父上樣の御意に從ひませうほどに』

兩親は娘の乞ふがまゝに、本意なくも雄燕を亡きものにして、雌の頭へ赤い糸を結んで放ちましたが、ひと歲經つて歸りて來ましたのは、やつぱり雌燕一疋でしたので、とう／＼は、父は娘の心に任せたと申すことでございます。

いま來たと言はぬばかりの燕かな

あそぶともゆくとも知らぬ燕かな

簾に入りし美人に馴るゝ燕かな

ぬれつばめ門を幾度も通るは無事な
顏をみせにか見に來たか

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

處女新聞

第五巻

處女新聞社

日本の地位

媾和談判も本舞臺に入りました。日本の要求も叶つて血を流した青島も日本のものとなりました。是が支那の爲の一番よいことなのです。日本と支那とはどこまでも力を合せひとつ心になり東洋の平和の爲に働かなければなりません。然し是が爲に支那に騒動が起つたことは皆様も御承知の事です。勝つて兜の緒をしめよで日本も是からが油斷がなりませぬ。平和といふことは、實力あるもの同志の口約束です。

東京のにぎはひ

東京は五月七日から十日にかけて非常な人出でした。皆様の多くはさびしい田舎にゐらしつて、花電車もみず、大名行列もみることが出來ないでせう、いや〳〵、きのふけふ忙しいさかりで、お茶つみに、桑つみに、水田の手入れに、目のまわるようでせう。御同情します。然し其處にまた何んとも言へぬたのしみと、強さがあります。市民が國旗をたてゝ萬歳をとなへるのが忠義なれば、皆さまが山にかくれて働いてゐらつしやるのは一層の忠義なのです。まじめにお働きなされ。

日本一の女學校

私は四月三十日に廣島縣の山縣郡の新庄村の女學校を拜見に參りまして五月七日に東京にもどりました。新庄村は廣島市から十七里の山奥、どうしてこんな、へんぴな村の女學校をみにいつたでせうか。いや〳〵この學校こそ日本一です。そのわけはつぎの號のおたのしみ。

笑ひばなし

○とのさんへ

鼠が大勢あつまり障子のさんへ上り比べをして居ります。てんでに上つたり、下つたりしてゐましたが、一疋の鼠が裃を着てゐますのを仲間がみつけて

「おぬしは如何裃を着るのだ」

ときゝますと

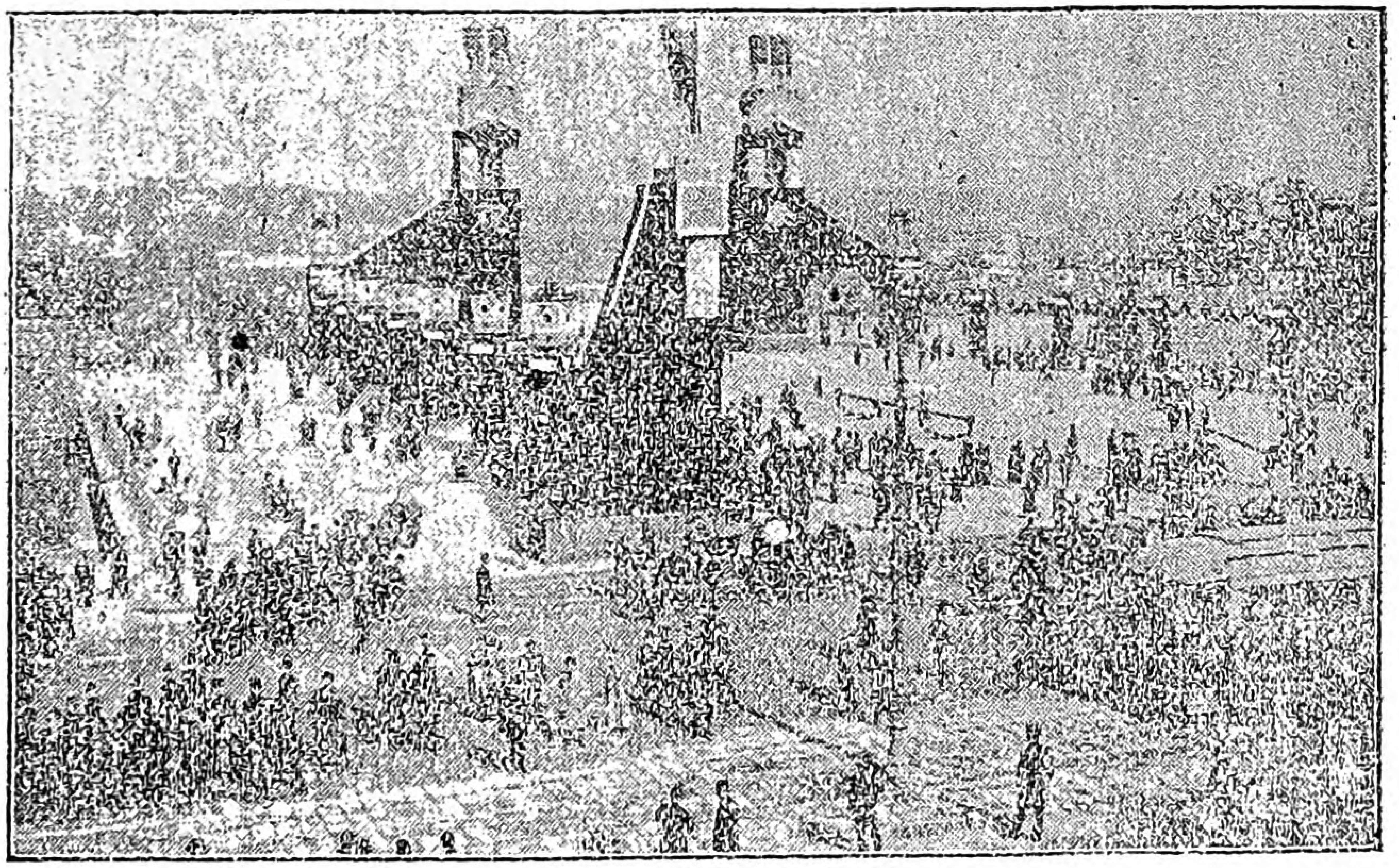
「私はとのさんへ上ります」

すきな唄

茶つみ唄、桑つみ唄、田植歌など田舎の姐さんの唇から洩れ出る唄ほど無邪氣で意氣なものはありません。よい唄は野の血と涙の現はれです。空氣を一ぱいすつて青い野に大きな淸い聲でお歌ひなさい。さあ皆さん一所に。

鳥も通はぬ山里なれど
　住めば都よわが里よ
山が燒けろが立たぬか雉子よ
　これが立たりよか子を置て
菫つむ子に野のみち問へば
　蝶のゆく手を花で指す
山がらが山がいやさて里へ出て
　里でさされて山こひし
夏の山みち谷間をみやれ
　谷間〳〵に百合が咲く
こぼれ松葉をあれみやしやんせ
　枯れて落ちても夫婦づれ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN



東宮御成年式當日の宮城前のにぎはひ

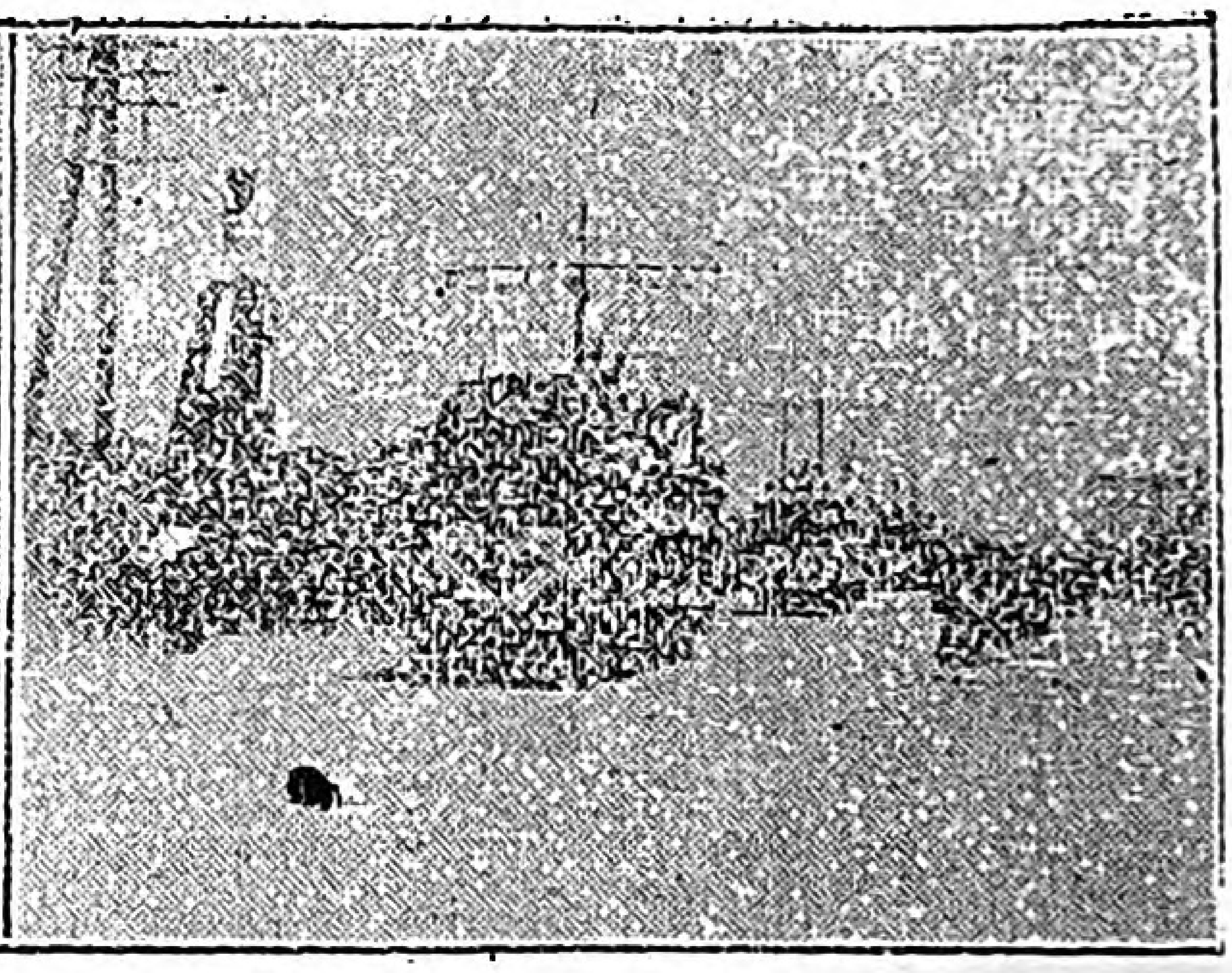
皇太子殿下御成年式

皇太子殿下には本年を以て滿十八歳におなり遊ばしましたので五月七日おごそかな御成年式がとり行はれました。當日は賢所に文武の高官たちを召され　天皇陛下は　皇太子殿下に御成人の御冠を授けたまふのであります。この御冠を御いたゞきになりますと、もう御立派に御大人におなり遊ばしましたわけで、民間によくいふ元服といふのと同じことであります。

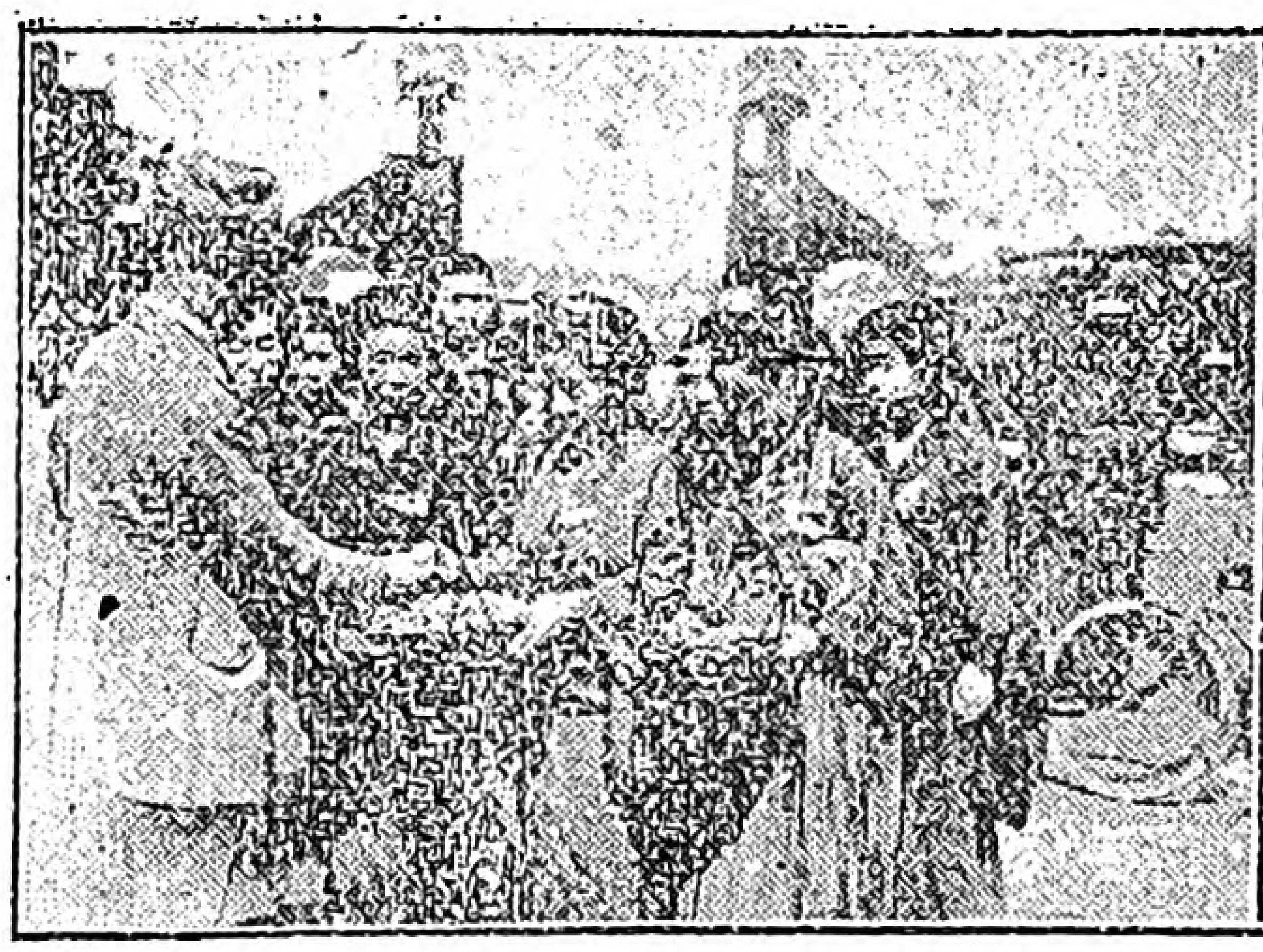
皇太子殿下は御幼少の頃より御聰明であらせられましたが、御年を加へられるに從つて益々御英明となりたまひ、御身體も非常に御丈夫であらせられ、御身長五尺四寸御目方は十五貫と伺ひます。御國の萬々歳でございます。

當日天候晴れ渡り暑からず寒からず、誠にうるわしい日和で宮城の前に　殿下の御立派なお姿を拜みに參りました市民は、大へんな數でした。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN



花電車



花の日會の花賣り

お江戸から東京へ、丁度五十年、その紀念のお祭りが、お目出度い御成年式の後を追ふて催されましたことは、お國のお喜びであります。

五月九日も一天曇りなき日本晴で、早くから煙火があがります、花電車は御成年式當日から喜びをこめて廻つて居ります。市中は戸ごとに國旗を立て、提灯をかざし、おもな所にはアーチを立て丶、にぎはひを添へて居ります。夜になりますと尙美しいのです。

當日　兩陛下　東宮殿下には東京市民の爲に上野公園に行幸行啓あそばされ、市民の奉祝を御受け下さいました。當日二重橋の前より御道筋は一帶に學生を首めにし、老幼男女を以て滿たされ近年にないにぎわひでございました。

九時に、御出門あそばされました。畏くもこの日には幌のないお馬車でございましたので、一層うるわしい　天顏を拜むことが出來まして、幾百萬の市民の喜びはたとへるものもありませんでした。此日紀念の爲に大名行列が催されました。

花の日會と申しますのは、處女會中央部の理事の嘉悅先生が重もにやつてゐらつしやる公共の爲の會で、花を生徒たちが賣りまして其の賣上げで爲になるよい仕事をなさるのです。お目出度い御成年式と奠都式には思ひつきの御活動でした。

私が朝早く　兩陛下を拜みに參りますともう先生は花の日會の本部にお出陣になり一生懸命に生徒たちをお指圖でムいました。七日に十五萬、九日に三十萬を賣らうと仰言る。良家の娘さんたちまで花はいかゞと往來に出てゐます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

處女文壇

春の田舍

奈良縣吉野郡川上村　大西 ます

春だ〳〵と囁く樣の小川の水はさら〳〵と流れ、あたりの丘は綠の上に霞のうす衣をはなつてゐる、赤い西日が川邊の若草の上に落ちると、なんとなく淋しさが感じられる、黄金色の山吹の上には白い胡蝶がひら〳〵と遊んでゐる。此景の一つとなつた私はたまらなくなつて大聲に「春の小川はさら〳〵流る」と歌ひ出した。一文字に架けれた橋の向ふには茶色の蝙蝠傘をさした人がさく〳〵と砂地を刻んで通りすぎ、堤の上には白地に大きく丸松と染め出した手拭を冠つて赤い帶をしめた子が餘念なくよもぎを摘んでゐる。燕の聲にふと見ると、方々の家から夕餉の煙がゆるくなびきて風の方向を示してゐ、すると子供の一群が「赤い夕日に照らされて友は野末の石の下」のうたを殘して彼方に去つた。

（評）有のまゝに書かれて景色見るが如し。

都の友へ

栃木縣足尾町　笠木 晉與子

八重子樣、その後は如何に暮らして御座いますか、都はもう葉櫻の世と變りましたでせう。お花見にはぜひと思ひましたのですが到〳〵參れませんでした。又上京の折も御座いませう、田舍は是れからが樂みで御座います。畠の麥も大分伸びて、姉樣冠りの手拭の下から若やかな頰を覗かせて働いて居る村の娘さん方も見られるやうになりました。八月のお月もちをのみ待ち詫てゐます三年振りでお合ひする譯で御座いますわれ。どんなにお變り遊ばされたでせう。一日も早く御目にかゝりたう存じます。末ながら御身御大切に願上ます。

（評）滯りなく書かれてゐます。

蕨狩り

靜岡縣小笠郡西山口村　櫻原 しづ

「眞ちやんまあ何處にあつて、私少しも見當らないれ、れえ眞ちやん。」

「アラ――おかしいれ、この澤山のに。」

まだなれの露ちやんは愛らしい眼を見張つて此處彼處と飛び廻るのであつた。

雲り勝で、涼しい風は時々三人の面を撫でつゝ吹き去る。

見渡す限りの茶畑は麓に遠く綠を彩つて美しく、淸き空氣は常に私ともなさり彸いで淸きが上に淸かれと澄み渡る。

（評）蕨の芽も厥に交じる籠の中。

和歌

靜岡　鈴木 トヨ

あぜみちをさぼ〳〵と行く幼兒の小笠の下に雲雀なくなり

俳句

和歌山　高田 糸子

若葉もる杜鵑の聲や風かをる

群馬　石田ゆう子

指折つで節句まつ子の愛らしさ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

懸賞處女文藝募集

第一種

作文 題隨意（三百字以内）
和歌（題隨意一人三首）
俳句（題隨意一人三句）
考へ物
習字（半紙一枚六字）

第二種

處女會の寫眞
田園生活の感想
有利なる副業内職
地方篤志婦人の事蹟
田舎より見たる都會

第三種

處女倶樂部（はかき一人一通）
衛生問答（一人一問）
處世問答（一人一問）

通信

秋田縣仙北郡神宮寺町の有力家篤志家富樫つる子氏より、お手紙を頂きました。

拜啓當地は東奥とて昔は王化の至らざる處にて候ものを聖代の御代に生れし我身は都の人同樣に凡ての文明に浴するを得て尤も〳〵幸福のことにて候只氣候の上よりしては梅櫻桃李一時に花開き居る只今の奇觀は都と異なるのみにて候樣に冬は永く眠り居る爲め今は俄に多忙になる樣に男も女も都の人に後れざらんとするには中々忙はしく候折から天の一方より嬉しき福音は私を導き下さる處女の友二册嬉しく〳〵拜見仕り未だ御目通りこそ致さす候へども已に百年千年の知己の如き想ひ致され申候げに朝夕交際致し居る人にても終生知己ならざる人もあり又相見ざる内に間々知己なる人も有之事と存し我又周公を夢みすなと云ひしは全く古人を知己として終生欽慕遊ばされし夫子の御言も今更の如くに思はれ申候（下略）

前號考へ物の答

第四號考へものの答は左の通りです

一 百合の花
二 鮎 鯛

正解者二百三十人の內例の通りくじ引きで左の方々に賞品を上げます

千成キクエ（北海道石狩國幌内村）△上田ちよ（宮城縣本吉郡名足校內）△豐島きく（靜岡縣庵原郡由比町）△宗岡よれ（廣島縣賀茂郡志和堀村）△財前くり子（大分縣西國東郡田染村）△山田しな子（高知縣幡島郡月灘村）△長野竹美子（福岡縣遠賀郡）△伊津澤さみ子（山形縣山形市）△花本君江（岡山縣津山町）△北條仲代（熊本市内坪井町）△時久爲子（愛媛縣松山市）△富永きぬ（福井縣郡村）△小牧曾世子（山口縣玖珂郡伊陸村）△沓田小冬（岐阜縣惠那郡蛭川村）△林道子（滋賀縣灘生郡市原村）

考へ物

さんぼさはちと西と東からさんで來ましたはちはどつちからきたでせう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

○編輯局より

○皆さまは、御健康のこと、思ひます。いつも〳〵後れまして何とも申譯がありません。四月三十日に廣島縣の女學校や處女會をみに參りましたのです。然しよいお土産を澤山もつて來ました。

○もう暑い位になりました。皆樣は是からひと戰爭です。雜誌よむひまもない位でせう。皆樣が鎌をもち鍬をもつことが、立派な〳〵勉强です、讀書です。然しどうか「處女の友」ばかりは御見捨て下さるな。皆さまの爲の雜誌なのですから一人でも減りますと、中央部の力はをとろへます。そしてどうぞ皆さまが御一人づゝ新たな讀者のお友達を御さそひ下さい。澤山出るようになりますれば、外の仕事が出來ます。どうぞ御願ひ致します。

○地方處女會はます〳〵發達して來ました先頃廣島縣へ參りまして縣廳の方に伺ひましたらば、なか〳〵立派な處女會があるさうです安佐郡の綠井村婦人會も此の一つだと申しました。世羅郡吉川村處女會及高田郡の坂村處女會も立派だと伺ひました。

○皆さんは十分に「處女の友」を利用して下さい。相談部もひまで退屈してゐます。東京見物なさるときにはきつと〳〵お知らせ下さいそして地方の樣子をお知らせ下さい。

○「處女の友」は市中の書店にはない所があるかも知れませぬ。なるべく直接に申込下さい。多數の地方には支部を置きたうございます

○群馬のお馴染の岡部榮作樣から先頃中央部へ五十圓の御寄附がございました。皆さまと共に感謝致します。皆樣のお家とお里の幸福を祈ります。

○口繪の寫眞をどうぞ御送り下さい、なるべく寄附して下さい、永く保存して其のみちの方にみせしたうございます、私は出張する毎に持參し紹介してゐます。

處女の友定價表

毎月一回一日發行

定價	一部	三ヶ月分	半年分	一年分
定價	拾參錢	參拾九錢	七拾六錢	壹圓五拾錢
郵稅	壹錢	不要	不要	不要
合計	拾四錢	參拾九錢	七拾六錢	壹圓五拾錢

廣告料

	一頁	半頁
特別面	貳拾五圓	
普通面	拾五圓	九圓

注意

◎御註文は總て前金の事、前金盡きたる節は封紙に「前金切」と捺印して通知に代ふ◎御送金は振替貯金が最も便利なり◎郵券代用は一割增のこと◎外國行は郵稅實費を申受く

大正八年四月二十日印刷納本
大正八年五月一日發行

東京市牛込區津久戸町二十四番地
編輯兼發行人　稲島四郎

東京市京橋區弓町十三番地
印刷人　天野藤男

印刷所　千代田印刷株式會社

東京市牛込區津久戸町二十四番地
發行所　處女會中央部
電話番町一三〇六番
振替東京六一九〇番

大賣捌　東京堂、東海堂、北隆館、良明堂、至誠堂、上田屋、其他全國の主なる雜誌店

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

創刊以來二十年！

『處女の友』と姉妹關係の週刊新聞

婦女新聞

定價　五週（五部）送料共三十錢△十週（十部）五十八錢△二十週（二十部）一圓十五錢△三十週（三十部）一圓七十錢△五十週（五十部）二圓八十錢（總て送料共）

『處女の友』は處女會々員の修養を目的として發行せらる〻少女雜誌なり。されば、あまり意味の深遠なるもの、又は社會に對する警醒的文章、或は處女團體の施設に關する評論彙報等は『處女の友』に掲載せられず。而してそれ等を掲載して處女會の指導に任ずる人の參考に資するは婦女新聞なり。婦女新聞は明治三十三年創刊の週刊新聞にして、爾來十九年、每號皇后陛下（東宮妃の御時代より）の台覽を忝うし、全婦人界の公益機關として一貫の主義の下に努力し、特に地方婦人の向上發展の爲めに盡せり。希はくは全國各町村處女會の幹部の人々が、本紙を必讀せられんことを。處女會中央部の消息を最も精確に報道するは本紙なり。昨年十月以後の婦女新聞には、全國各地の處女會及び婦人團體の事績を連載せり。

東京市牛込區津久戸町二四　**婦女新聞社**　電話番町一三〇六番　振替東京二八〇七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

斯民

一部　二十錢　一年　二圓四十錢

五月號

自治制施行卅年に際して……水野博士

都市計劃に就て……池田宏

戰後の林業……鶴見山林局長

農村と郵便貯金……天岡貯金局長

列强と日本……安本重治

極東露領の地方行政機關の現狀……守屋監察官

國勢調査で調べる事項……横山統計官

滋賀縣の奉公貯金……今井彌寛

床次夫人を偲びまつりて……平井三千代

鹿兒島の鄕中制度……村田宇一郎

自治法令の研究……平井良成　近藤行太郎

天幕形の自治……石田傳吉

田舍草紙……山崎延吉

報德千話……井口丑二

一巡四日……一民生

地方改良放言漫語

地方行脚だより

眼前徂來

發行所　東京市麹町區永田町一丁目　中央報德會　振替東京九七〇〇番

地方自治の精神

內務監察官　守屋榮夫先生著

再版　四六判函入美本　定價一圓二十錢　送料六錢

國家の基礎は地方に在り、されば地方の開發如何は國家興亡の依つて岐るゝ所也。著者は多年地方官さしての經驗を有すると共に今や本省に入りて地方監察の任に膺り、地方自治の現狀に就て知る所最も深きものあり、繁劇なる公務の餘暇を以て慨然筆を呵して本書を成せり。されば地方自治を談ぜんとする者は必らず本書を一讀せざるべからず。

實業補習學校教育

內務省書記官　田澤義鋪先生著

〔最新刊〕　定價三十錢　送料四錢

本書は著者が多年熱血を灑いで絶叫せる主張を披瀝せるものなり。言々句々悉く肺腑より湧き出づる血涙の文字。小冊子と雖も千萬言を連ぬるに優るものあらん地方の振興に志ある人士は本書を一讀せざるべからず

大正七年十二月二十五日第三種郵便物認可
大正八年四月二十日印刷納本
大正八年五月一日發行（每月一回一日發行）

一部定價　金拾參錢
發行所　東京市牛込區津久戸町二十四番地　農女會中央部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN